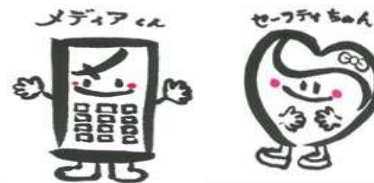


令和元年度 (6月実施)  
佐久市スマホ、タブレット、ゲーム機等に関する  
児童・生徒・園学校保護者アンケート実施結果



## 子どもは電子メディア機器とどんなつきあいをしているの？ ～児童生徒・園学校保護者対象アンケートの結果と考察～

佐久市教育委員会  
Saku Kids メディア Safety

平成28年の「Saku Kids メディア Safety」の立ち上げから4年目となり、メディアとのかかわり方を考える様々な手立てを行ってきています。しかし、子どもたちを取り巻く状況、とりわけ、電子メディア機器等に子どもたちが触れる機会は、年々低年齢化し、増加の一方です。佐久市内でもそれぞれの園や小中学校で、情報モラル教育を行っていますが、新しいアプリやゲーム機等の登場により、常に現状をとらえ、意識を高めていく必要があります。また、保護者世代もタブレット機器やゲーム機器等に慣れ、使用してきた世代となり、子育てにも変化がみられてきています。以前から心配されている通り、乳幼児期のメディアとのかかわりも、さらなる対策が必要である状況です。「Saku kids メディア Safety」、佐久市教育委員会としても、市全体の状況把握をし、電子メディアとの適切な付き合い方について各種提案を行っていきたいと考えています。

### 1 アンケートの目的

- (1) 幼児、児童、生徒が電子メディア機器とどのような接触をしているのか、またそれについて各家庭でどのような対応をしているのか、その実態を把握する。
- (2) 各園、学校、PTAが自分たちの実態を知り、自分たちの課題として捉え改善に向けた行動に移す。
- (3) 市全体の状況把握をし、全市的な啓発の取り組みを検討する。

### 2 実施時期

- 令和元年6月

### 3 対象学年等について

＜保育園、幼稚園＞ 年少～年長

＜小学校＞ 3年生以上

＜中学校＞ 全校生徒

＜保護者＞ 保育園・幼稚園の保護者 小中学校保護者

#### ＜アンケート結果と考察の目次＞

(1) 小中学生アンケートの結果から P 2～11

(2) 小中学生保護者アンケートの結果から

P 12～17

(3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

P 18～22

### 4 アンケート内容・実施方法について

- (1) 児童生徒は学校において一斉アンケート。学校の実態により記名・無記名を選択。  
実施所要時間は発達段階にもよるが、通常 15 分程度。実施者が一斉に読み上げながら進めるのが理想とした。
- (2) 保護者へは電子メール配信システムによるアンケートを実施するが、未加入の家庭には紙ベースのアンケートを実施した。
- (3) 園の保護者へは、園より保護者へアンケート用紙を配布し、回収した。

## 5 回答が得られた人数・回収率

<児童生徒>

小学校 3年 857人 4年 792人 5年 827人 6年 764人 計 3240人  
 3240(回答数)/3469(全児童数) 回収率 93%

中学校 1年 839人 2年 742人 3年 775人 計 2356人  
 2356(回答数)/2560(全生徒数) 回収率 92%

<保護者>

小学校 1年 646人 2年 622人 3年 717人 4年 688人 5年 698人 6年 675人  
 計 4046人 4046(回答数)/5129(全児童数) 回収率 79%

中学校 1年 683人 2年 607人 3年 648人  
 計 1938人 1938(回答数)/2560(全生徒数) 回収率 76%

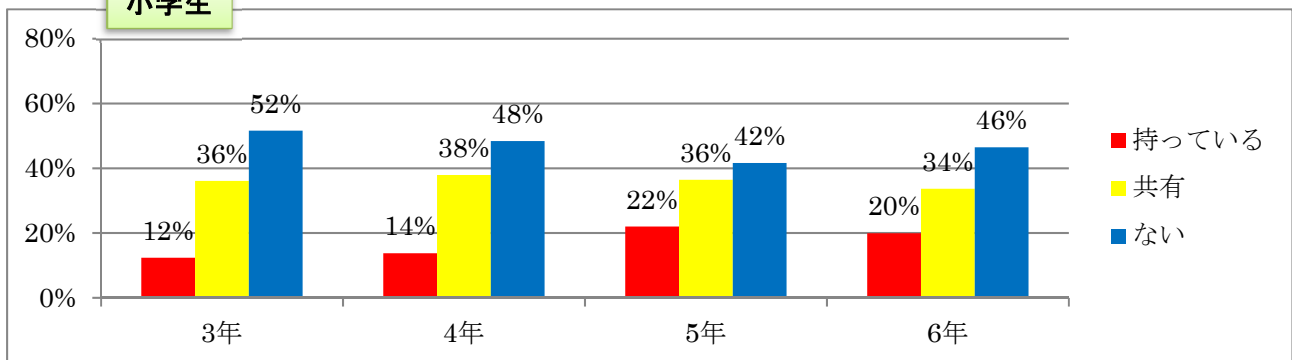
保育園・幼稚園 未満児 623人 年少 661人 年中 620人 年長 747人  
 計 2651人 2651(回答数)/3195(全園児数) 回収率 83%

## 6 結果と考察

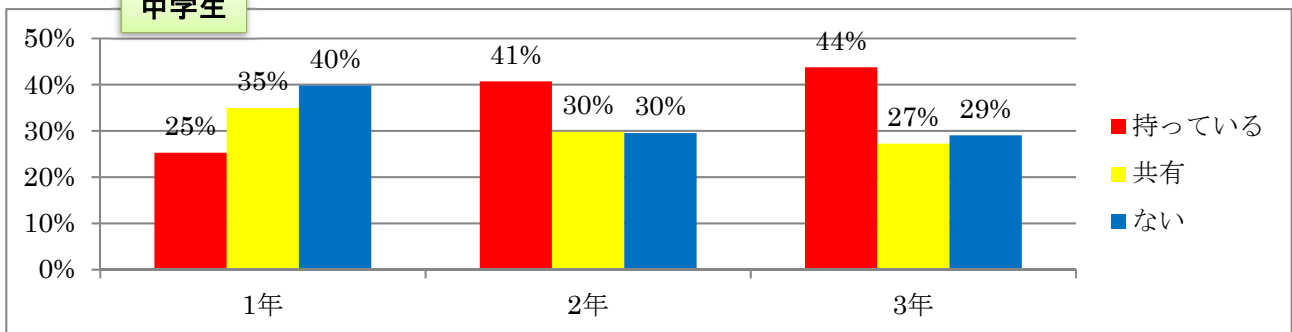
### (1) 小中学生アンケートの結果から

問① あなたは、自分が使える携帯電話(スマホ等)を持っていますか？

小学生

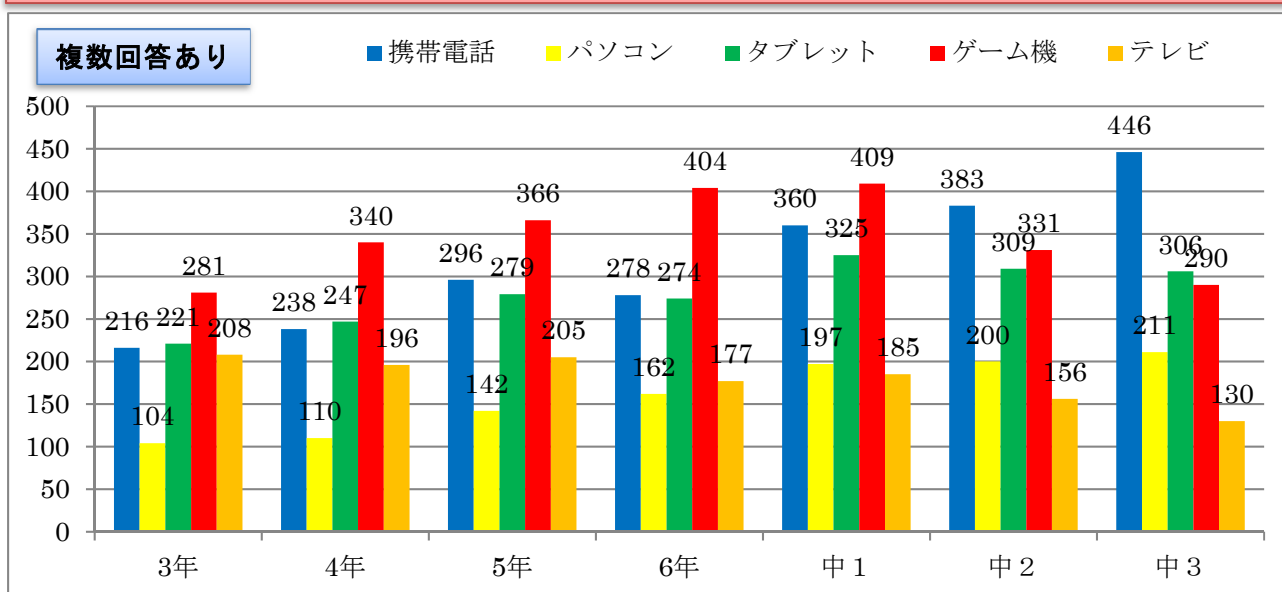


中学生



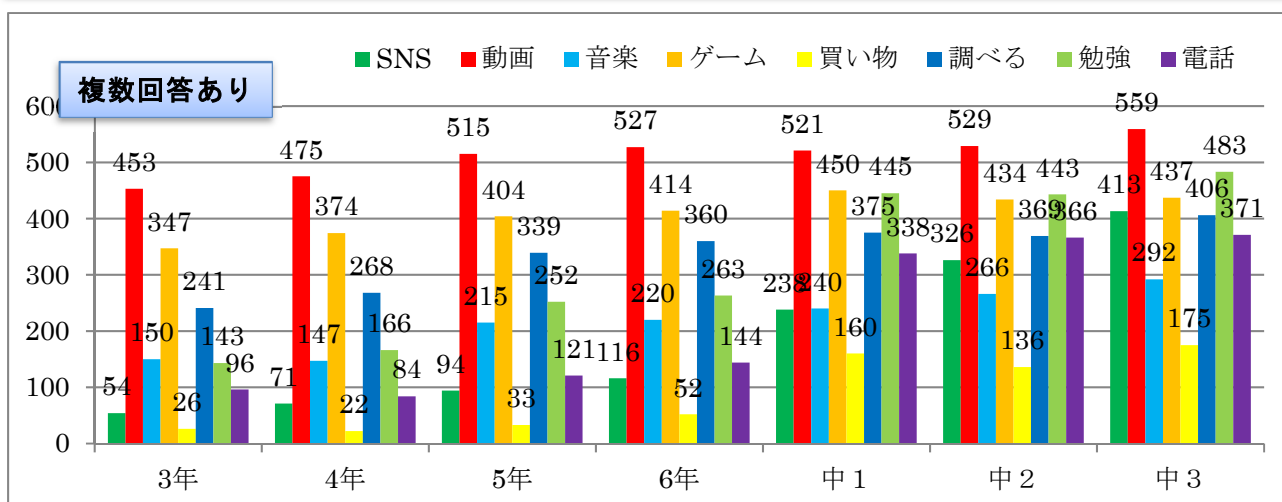
小学生では自分所有の携帯電話(スマホ等：以下「携帯電話」と呼ぶ)は1割～2割程度、中学生においては2割強から4割程度である。全国の統計(小学生専用37%、共有64%、中学生専用78%、共有21%)と比較すると、佐久市の所持率は明らかに低いことがわかる。所持率が中1から中2になって急に1割以上増えている。平成28年度のアンケート結果と比較して、中2からの所持率が1割程度高くなっていることから、中1の後半から中2の始めで、自分専用の携帯電話の購入が多いとみられる。

## 問② インターネット（ゲームやSNSも含む）を利用するとき、 何を使ってつなぎますか？



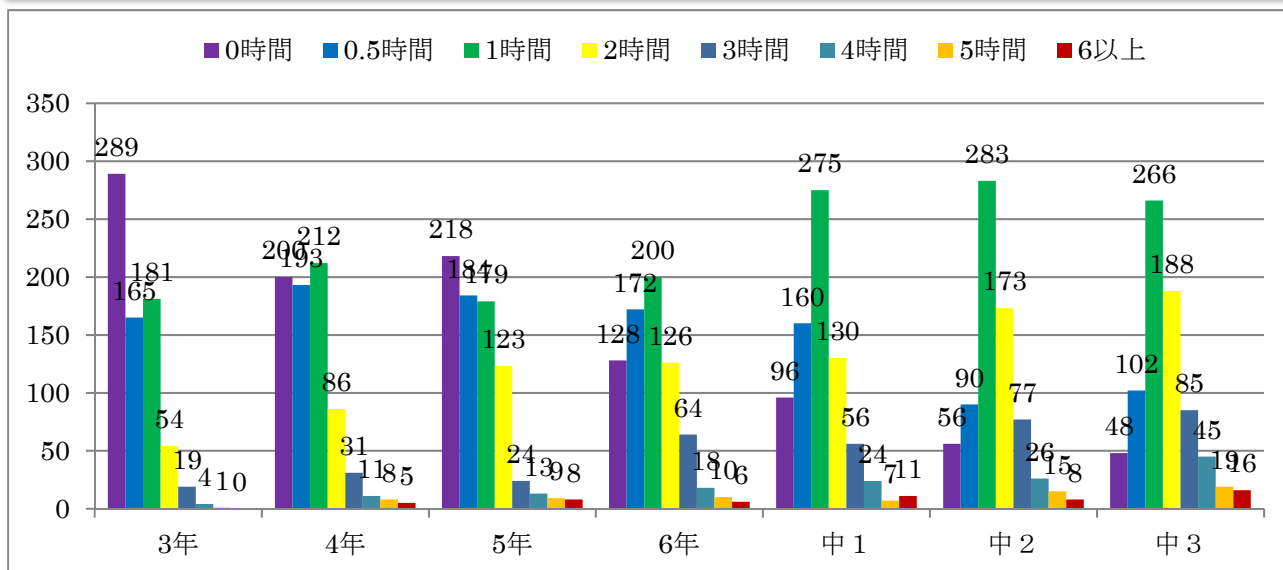
問①の結果でわかるように、佐久市内の小中学生は携帯電話の所持率が低い傾向にある。携帯電話を持っていないと、その代わりにタブレット型機器（アイポッド、アイパッド等）や、インターネット接続可能なゲーム機を買ってもらうケースが多く、結果として小学生の接続方法で一番多いのがゲーム機からであり、中学生でもゲーム機やタブレットからの接続の割合が高くなっている。また、年々パソコンを使っての接続割合が減っており、自分の携帯電話を使う割合が増えていると考えられる。保護者の目につかないところでの使用が増えていることが心配される。さらに、Wi-Fi スポットへ集まる子どもたちの問題点について現状把握とその対応策を講じていく必要がある。

## 問③ スマホやパソコン、タブレットでよく使うのは何ですか？



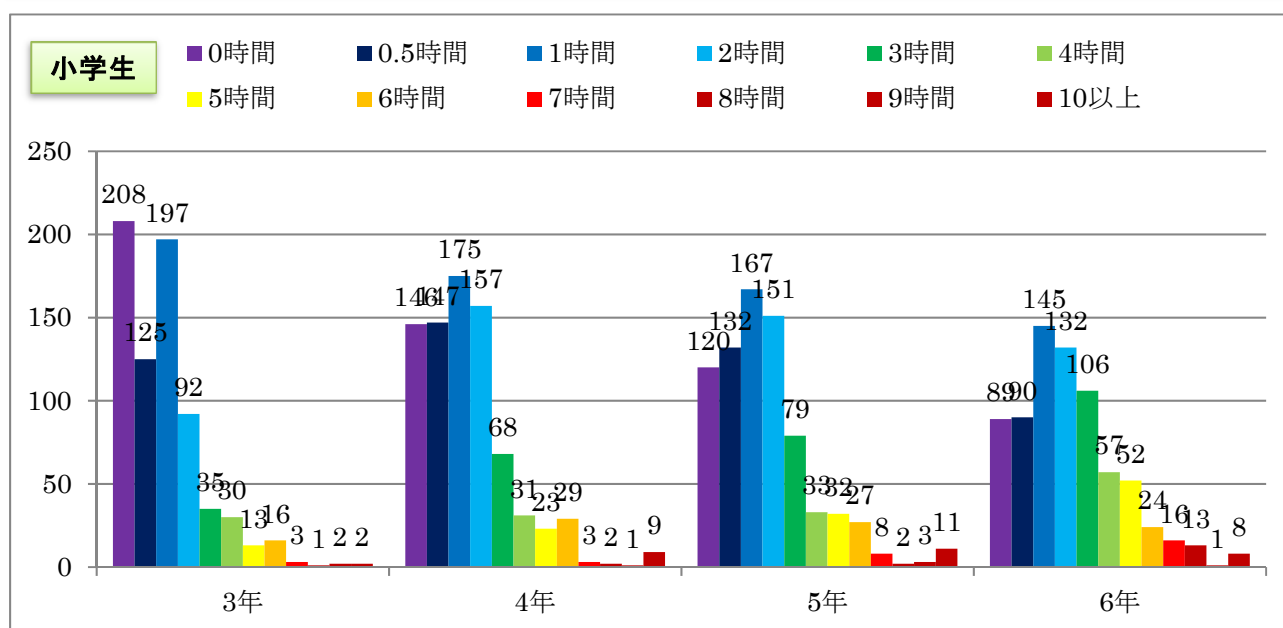
児童生徒が一番利用しているのはこれまでと同様に動画の視聴であり、小学生中学生ともにその割合が高い。ユーチューバーと呼ばれるような動画投稿者の動画を、テレビ番組を見るように毎日視聴している児童生徒が非常に多くなっている。中学生では、SNSや買い物の利用が増えており、問②と同様に保護者の見えないところで使用していることが考えられる。動画をユーチューブ等で検索する中で、思いがけず子どもの教育上不適切な動画が表示されることにも、注意を促していく必要がある。

問④-1 平日、平均でどのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？（教材のタブレット学習やテレビの時間は計算しない）

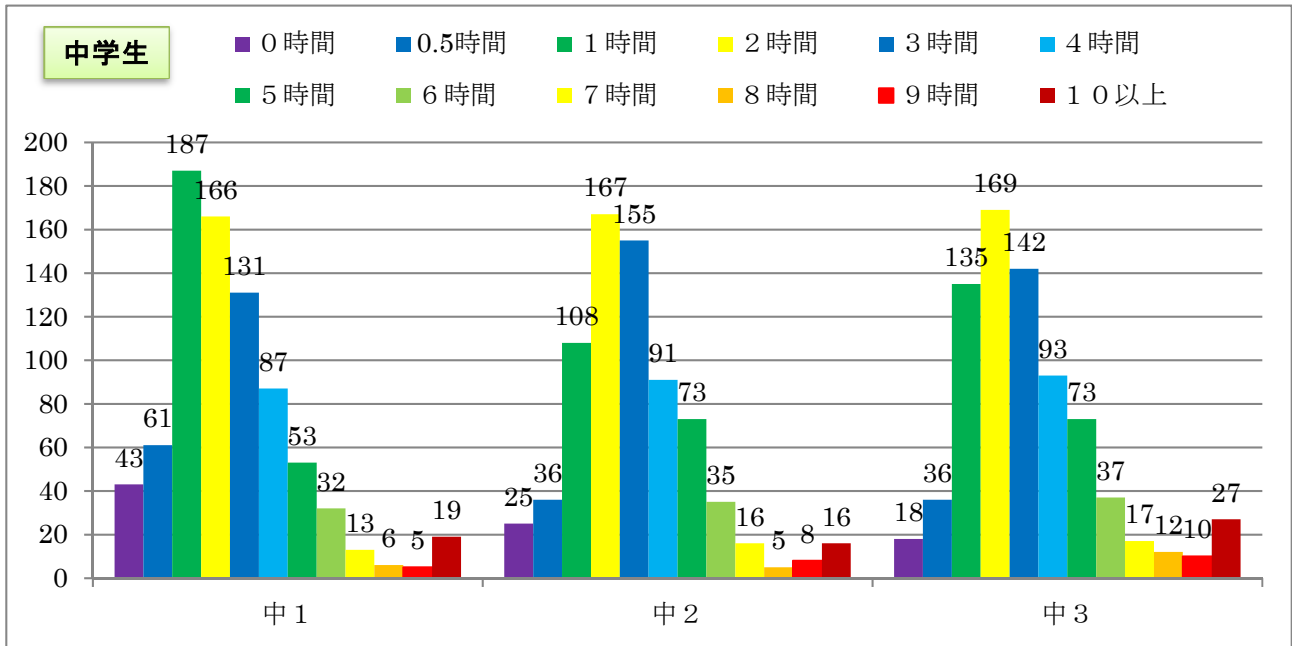


小学生中学生、いずれも学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。小学生では多くが1時間以内であるが、6年生になると0時間が大きく減り、3時間が増えている。平成28年度と比較すると、中学生は、0時間の生徒が大幅に減っており、4時間以上の長時間の使用率は横ばいである。多くの生徒が使用するようになってきているが、のめり込む生徒は増えていない。小、中学生どちらにも平日6時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒が大勢いることは、生活リズムや健康被害との関係で注意を喚起していく必要がある。

問④-2 休日、平均でどのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？（教材のタブレット学習やテレビの時間は計算しない）

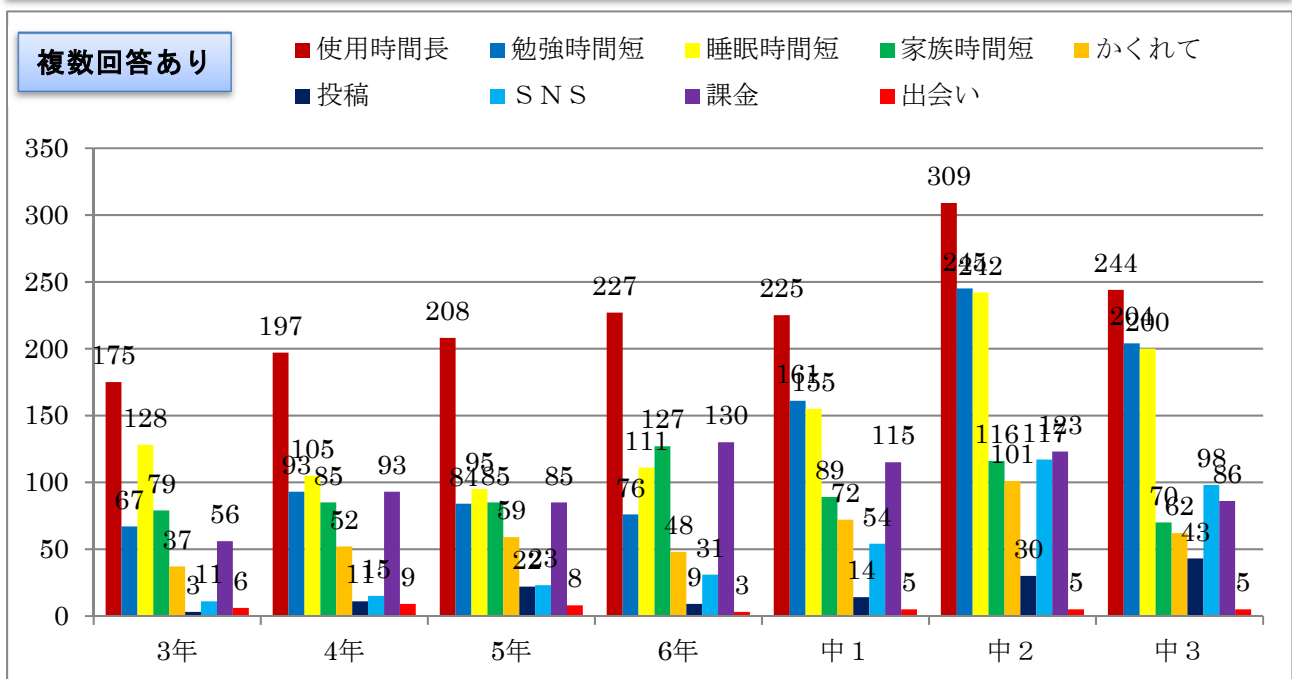


小学生の休日は、平日よりも使用時間が多くなっている。昨年度と大きな変化はないが、7時間を超える児童がおり、10時間以上は4年生以上で10人近くいる。1日の大半をゲームやインターネットで過ごしている状況を、家庭ではどのように把握し、感じているのか心配である。



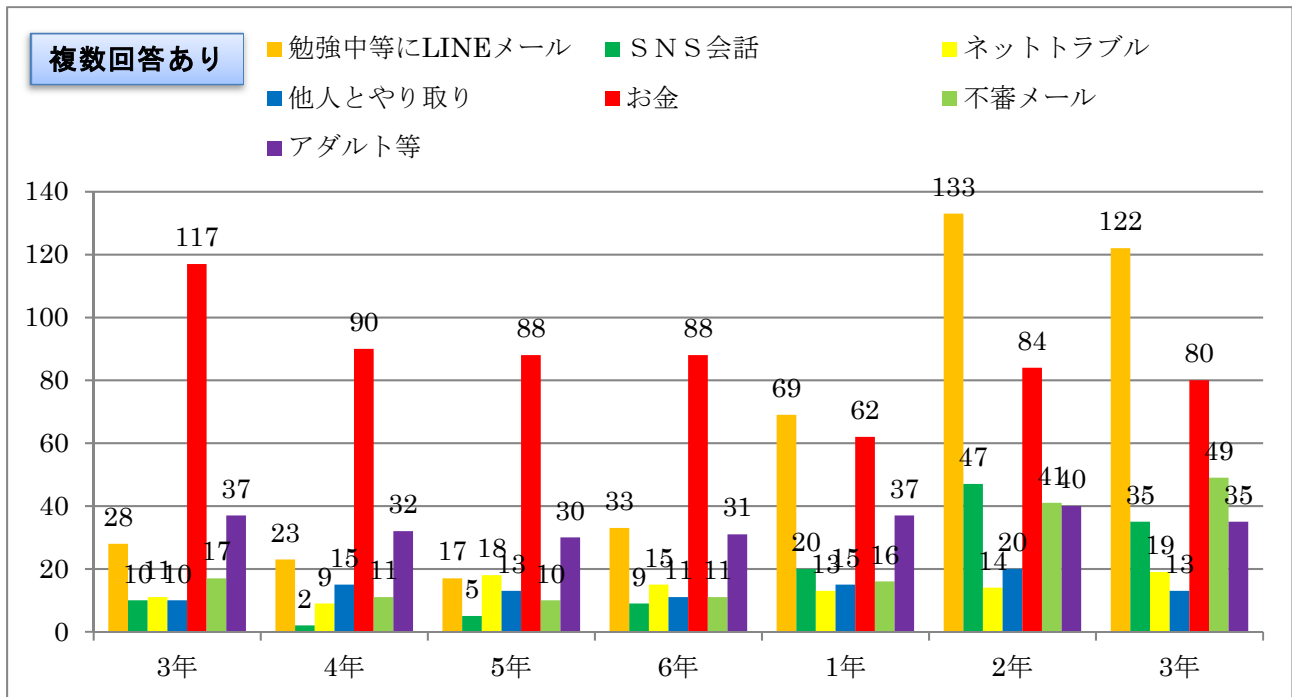
平日と同様に、中学生も学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。中学生では1～3時間の使用が多い。中学生でも休日10時間以上電子メディア機器に触れている生徒がいること、中学2、3年生になると、4～5時間使用する生徒の割合が高くなっていること等から、依存傾向が進行していくことが懸念される。

**問⑤ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって生活は変わりましたか？**



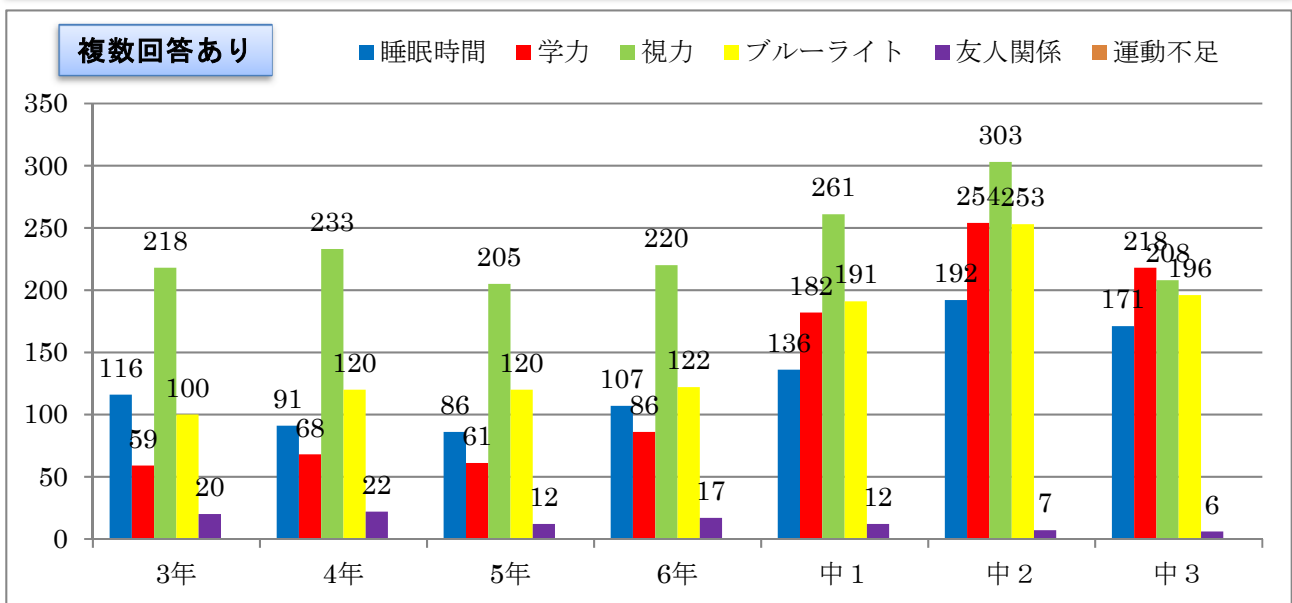
小、中学生ともに「使用時間が長くなった」と感じている児童生徒が多い。また、勉強時間と睡眠時間が削られていると感じている。睡眠時間については学年が上がるにつれて「削られている」と感じている傾向があり、電子メディア機器の使用が増えた分の時間、睡眠時間を削っている現状が見えてくる。小学生では、家族との時間が削られると感じているが、中学生ではSNSでのグループ会話が aumentando。ネットで知り合った人と会っている児童生徒もどの学年にも数人いる。どんな人と会っているか、保護者は承知しているか心配されるところである。

問⑥ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって  
困った（心配な）ことはありましたか？



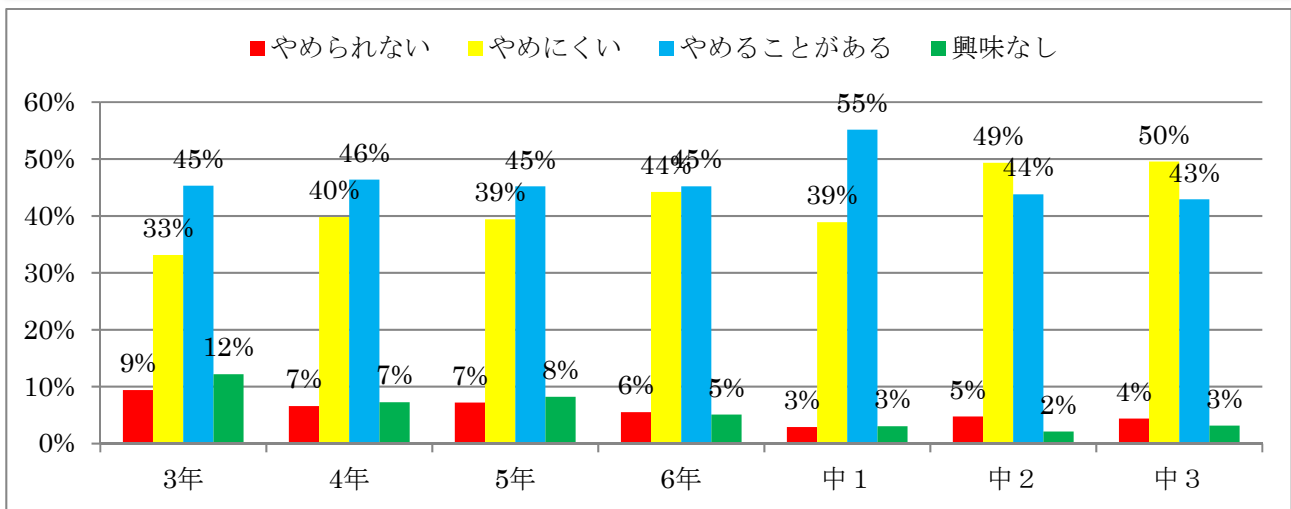
小学生は会員登録やゲームのアイテムなどでお金がかかることに心配を感じている。中学生も同様の心配があるが、勉強中や寝るときにLINEやメールが来ることに心配を感じている生徒が急に増える。これは、自分用の携帯電話を持つことにより、子ども同士の個人的なやり取りが行われるようになったことと関係があると考えられる。ネットトラブルやアダルトの広告など、学年問わず一定の人数で困っていることがわかる。小学生でもアダルトの広告などを目にする場面があることがわかる。

問⑦ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって  
健康等のことで心配になったことはありますか？



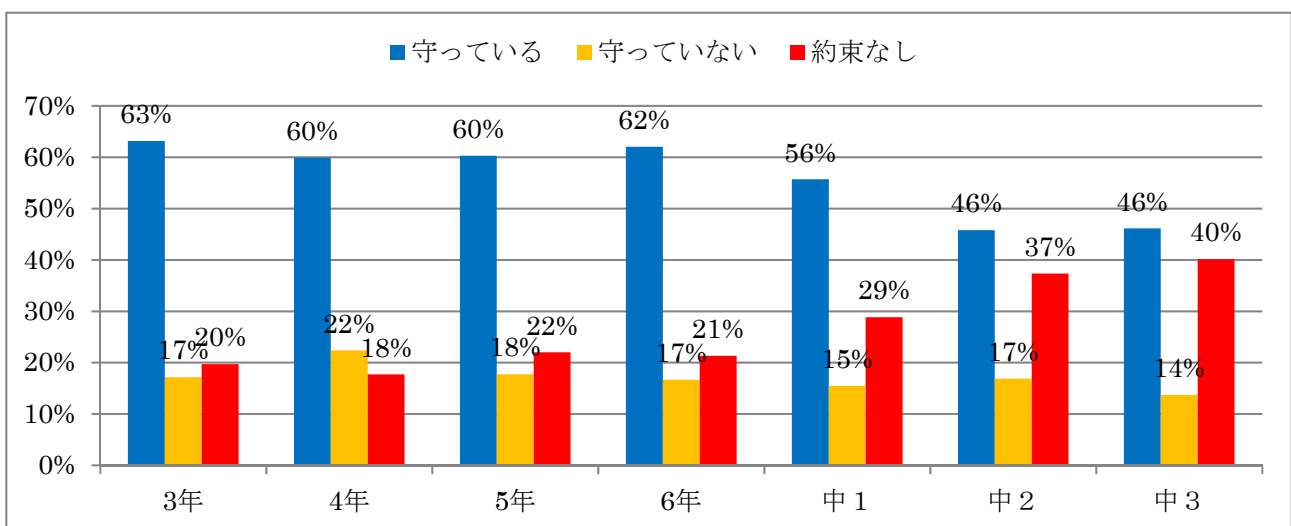
小学生は視力を気にする児童が多い。学年が上がるごとに学力への心配が増加傾向にある。中学生になると、学力の心配が急に増加している。3年生になると、様々な心配事の中で、学力への心配が最多となる。

問⑧ あなたは、スマホ、ゲーム、インターネット（どれでもよい）に、どのくらい夢中になっていますか？



小学校3年生は、「やめられない」児童が9%だが、学年が上がるごとに減る傾向がみられる。心のコントロールができるようになって、「やめられない」ということに対しては歯止めが利くようになってきていると考えられる。しかし、「やめることがある」と「興味なし」を合わせた割合は、学年が上がるごとに減る傾向があり、トータルで見ると、学年が上がっても、心のコントロールがしっかりとできるようになっていくとは限らないと言える。一度興味を持つと、興味がなくなることはない状況であり、メディアの依存性ははっきりと見える結果である。

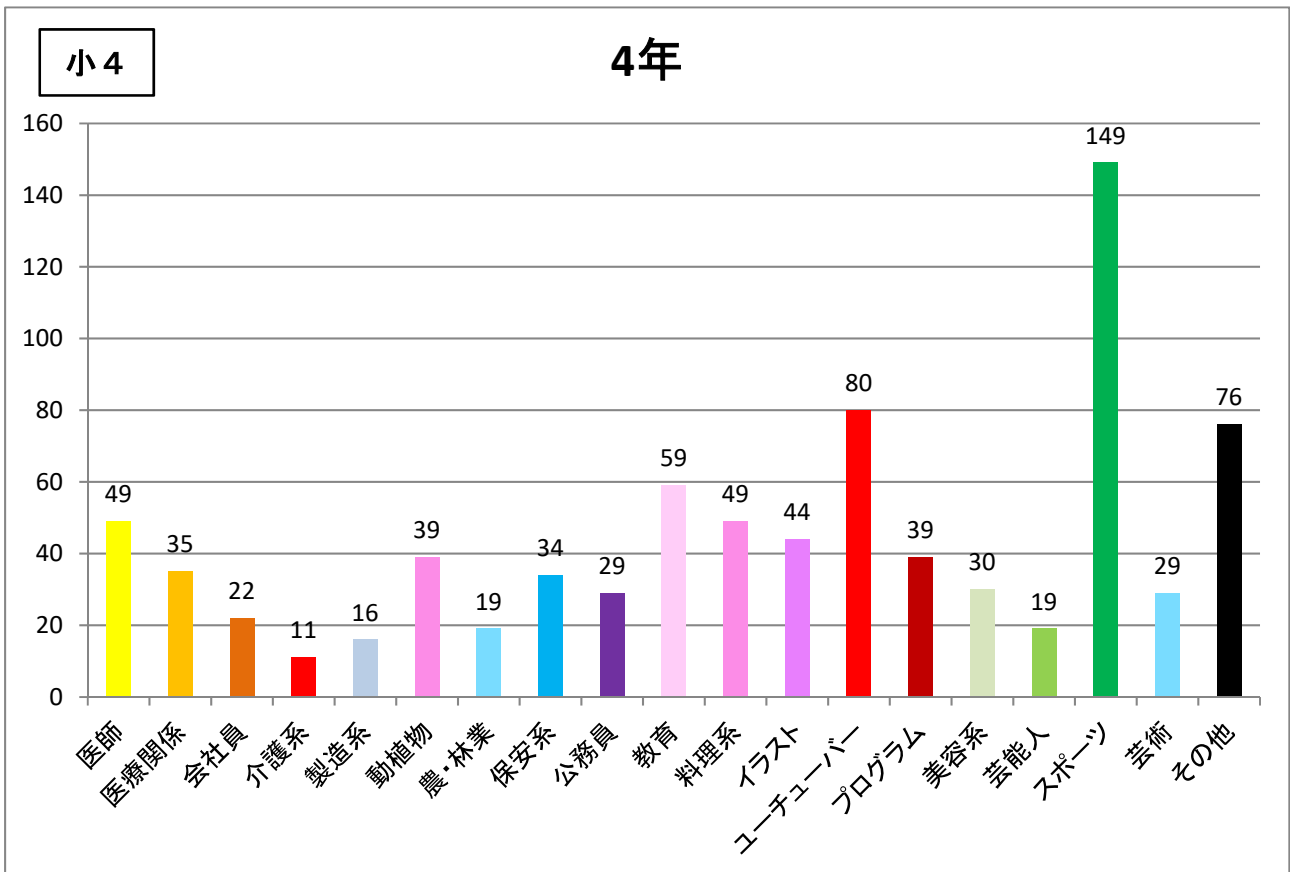
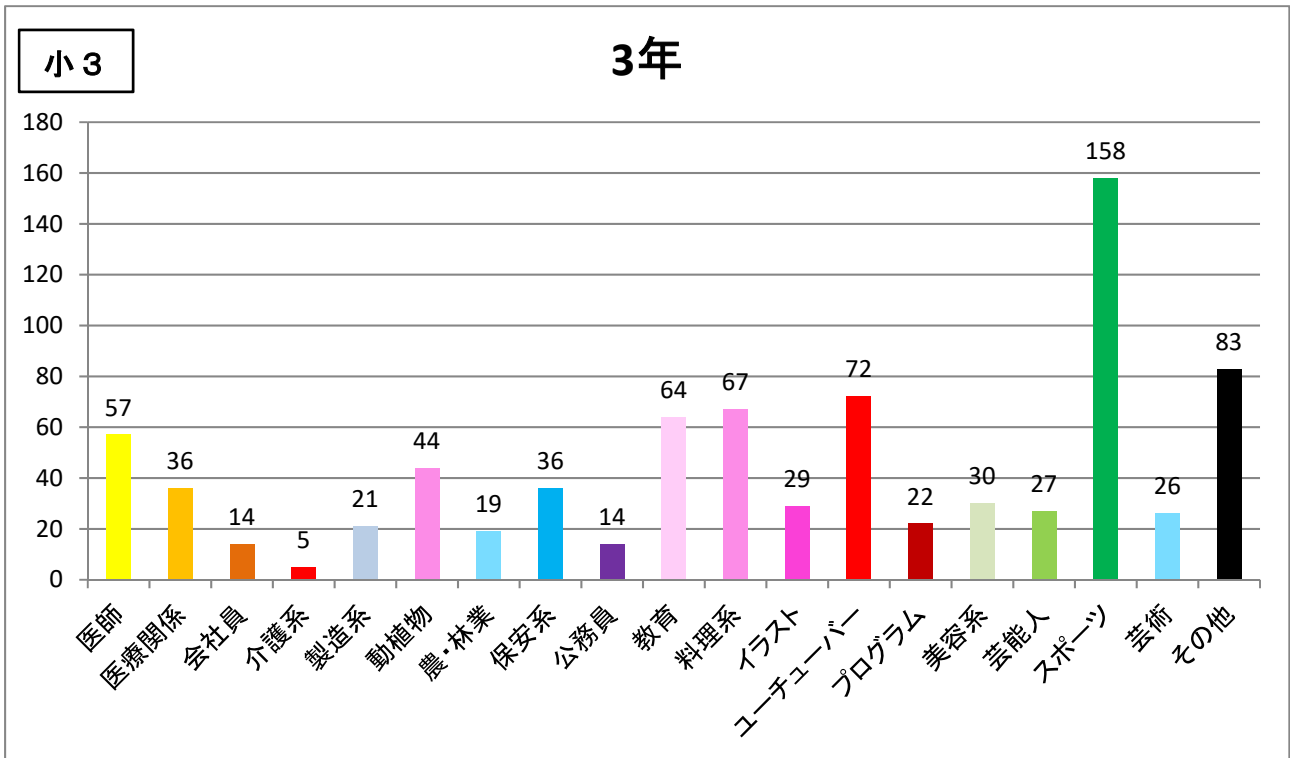
問⑨ 携帯電話やタブレット、ゲーム機を使うときのお家の人との約束はありますか？



小学生と中学生で違いがあり、比較的「約束を守っている」と答えているのは小学生、中学生は学年が上がるにつれて「約束がない」と捉えている。保護者アンケートとのズレについては後に詳しく述べるが、保護者は、小中とも90%以上約束があると思っている。中学生になってある程度子どもが自分の判断で利用できる範囲が広がることや、「約束がない」のではなく、「約束がないがごとくになっている」という家庭が学年を追うごとに増えているのではないかと考えられる。

問⑩ 情報関連の仕事への関心度の調査

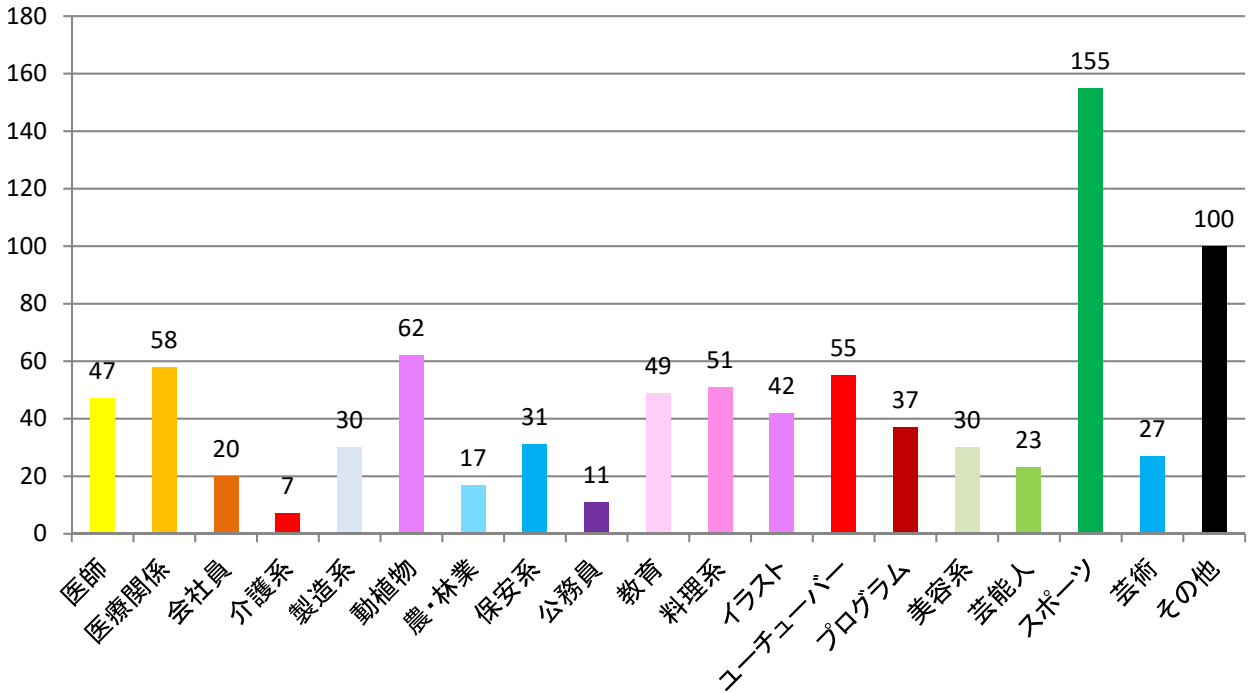
あなたの将来の夢を教えてください。





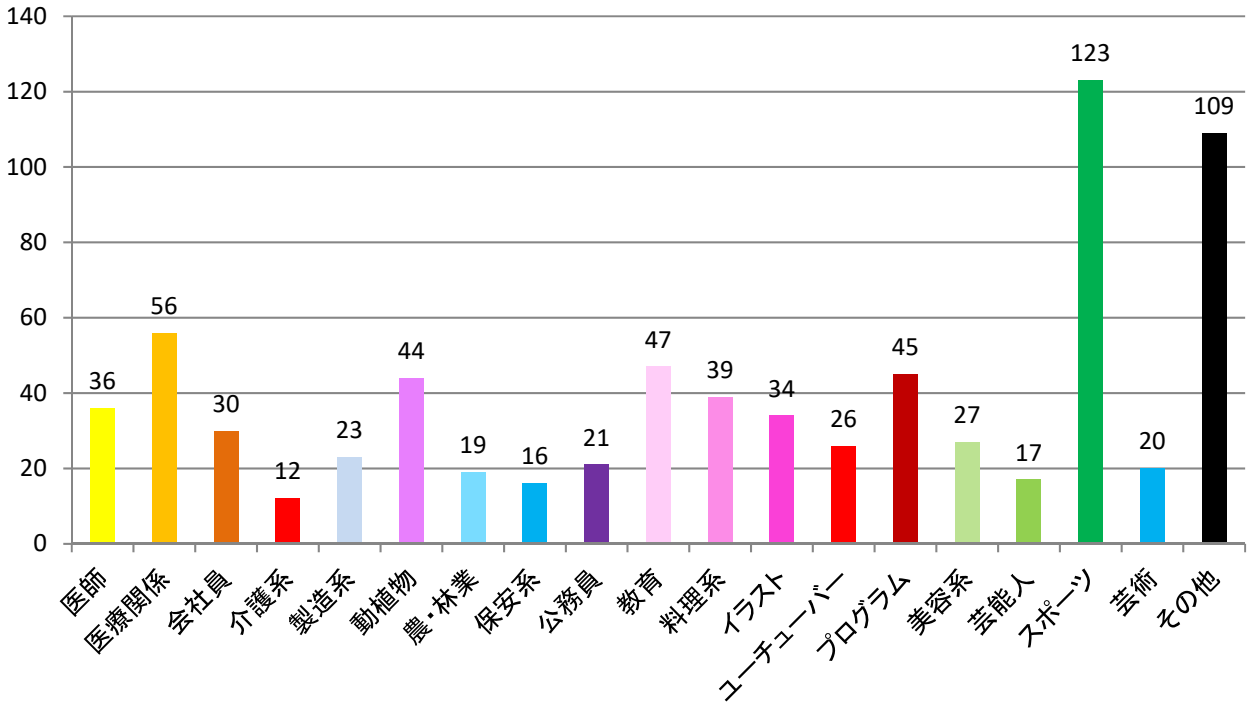
小5

5年

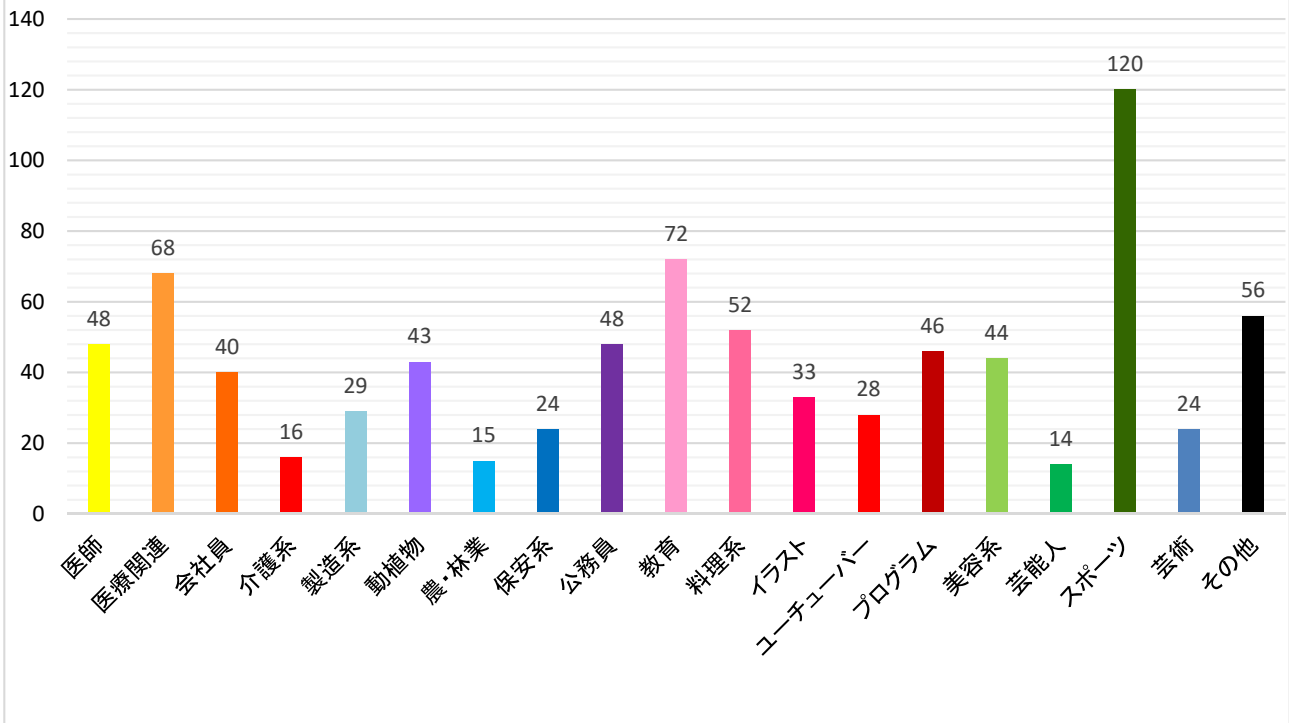


小6

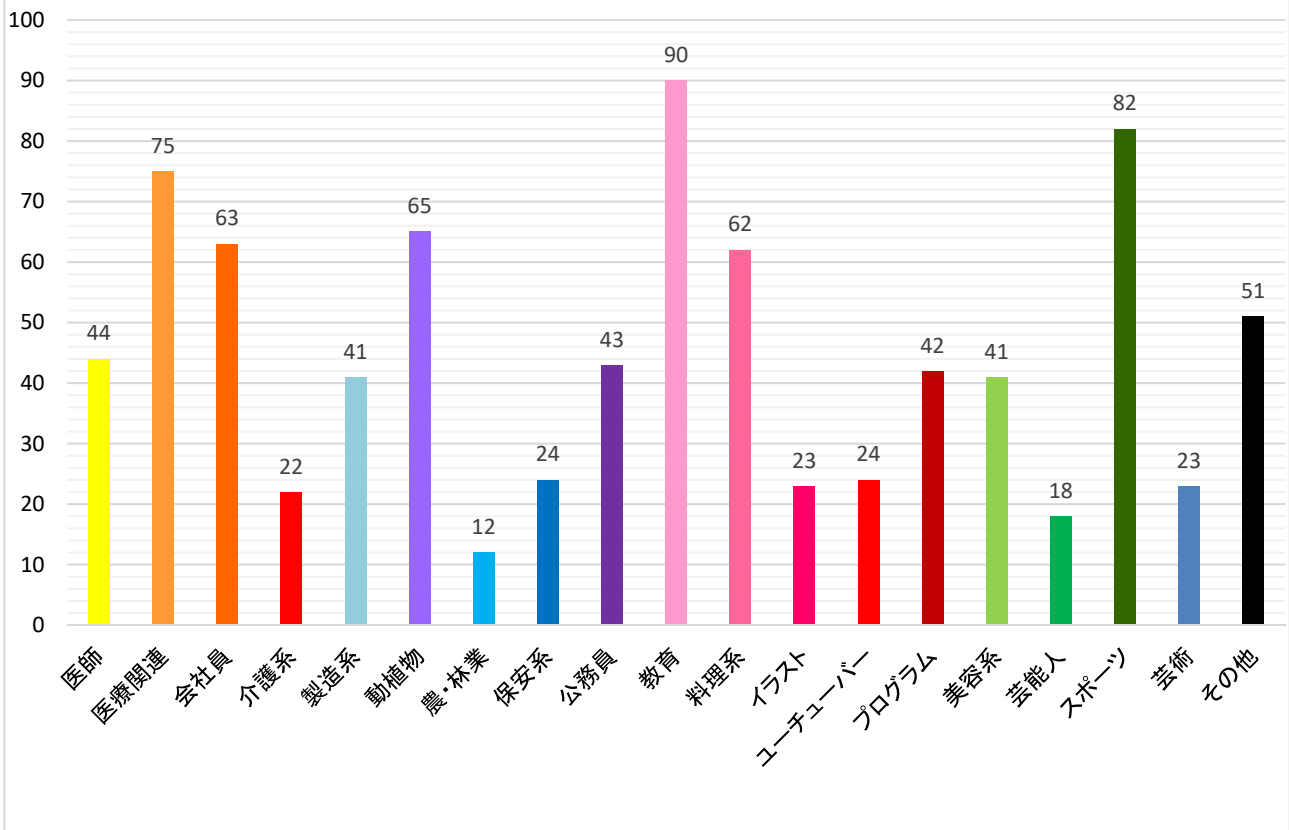
6年

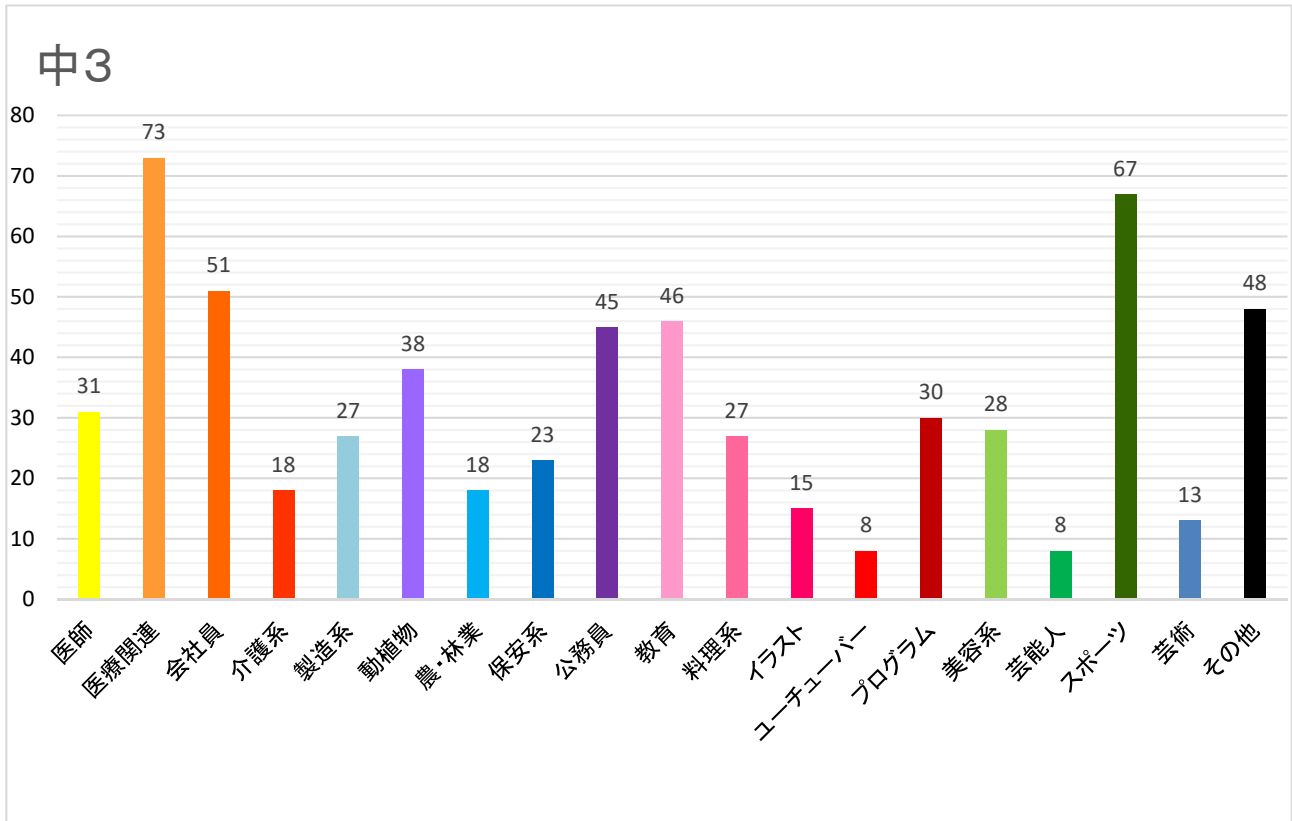


# 中1



# 中2





	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1位	スポーツ 19%	スポーツ 18%	スポーツ 18%	スポーツ 17%	スポーツ 15%	教育 11%	医療関連 12%
2位	ユーチューバー 9%	ユーチューバー 10%	動植物 7%	医療関連 8%	教育 9%	スポーツ 10%	スポーツ 11%
3位	料理系 8%	教育 7%	医療関連 7%	教育 6%	医療関連 8%	医療関連 9%	会社員 8%
4位	教育 8%	料理系 6% 医師 6%	ユーチューバー 6%	プログラム 6%	料理系 6%	動植物 8%	教育 7%
5位	医師 7%		料理系 6%	動植物 6%	医師 6% 公務員 6%	会社員 7%	公務員 7%

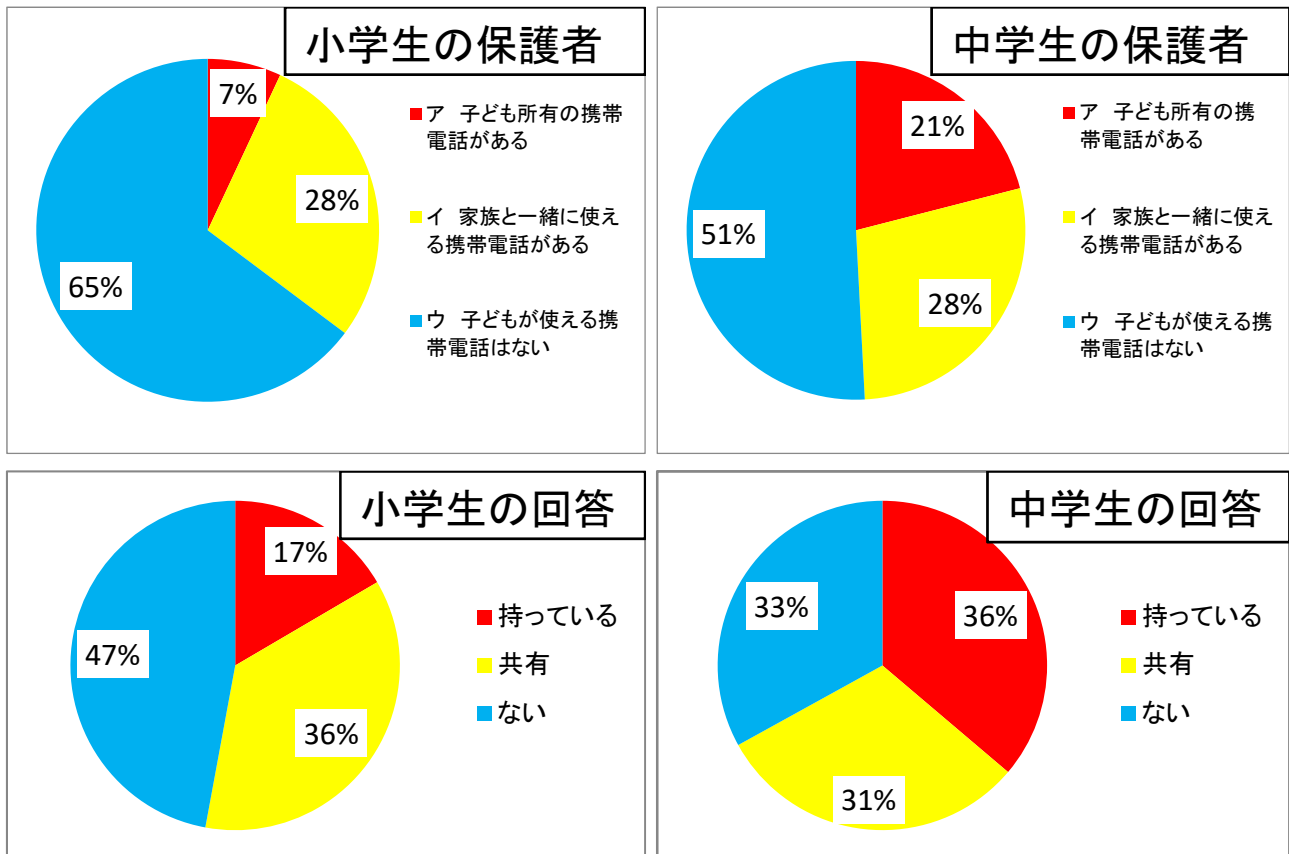
小学生は、学年が変わっても傾向は変わらない。スポーツはどの学年も上位となっている。電子メディアとの付き合い方が関係していると思われるが、ユーチューバーは小3・4で2位となっている。小5では4位となり、小6では10位以下になる。医師・医療関連の人气が高く、中3では医療関連が1位となる。佐久市の医療関連にかかわる職業の充実や、高齢化社会などが影響しているのではないかと考える。教育・料理系もどの学年でも上位に位置している。小5あたりから現実的な職業を考えるようになり、中3になると、グラフの状況が大きく変化している。キャリア教育や家庭での教育などから、高校進学や就職など自分の将来を真剣に考えるようになり、より現実的な職業観が形成されるためであると考えられる。

## (2) 小中学校保護者アンケートの結果から

### ① お子様の学年を教えてください。

小学校	1年 646人	2年 622人	3年 717人			
	4年 688人	5年 698人	6年 675人			
	計 4046人	4046(回答数)	／5129(全児童数)	回収率	79%	
中学校	1年 683人	2年 607人	3年 648人			
	計 1938人	1938(回答数)	／2560(全生徒数)	回収率	76%	

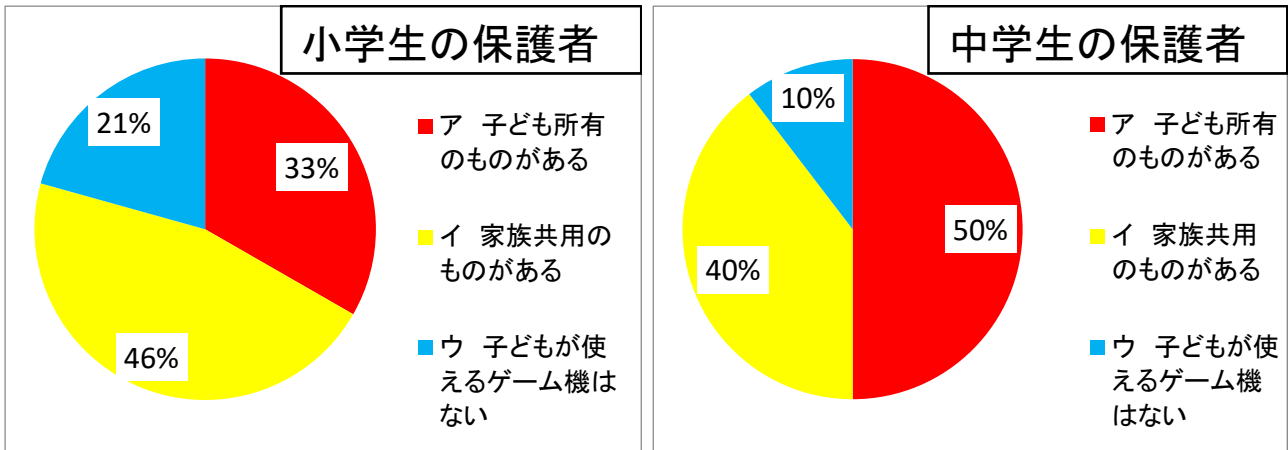
### ② お子様が使えらる携帯電話(スマホ等)はありますか？



保護者の回答と、学校において子どもが回答した結果に差が見られる。小学生は17%が自分専用の携帯電話を持っているととらえているが、保護者は7%で2倍以上の開きがある。中学生は子どもの36%が自分専用の携帯電話があるとしているが、保護者は21%で、こちらも2倍近い違いがある。考えられる状況として、  
 ①保護者は保護者の所有物と思っけていても子どもは「自分のもの」と捉えている。  
 ②保護者所有の携帯電話を保護者が認識している以上に子どもが使っている。  
 ということが考えられる。「保護者が知らないところで子どもが使っている」といった状況にならないように気をつけていく必要がある。

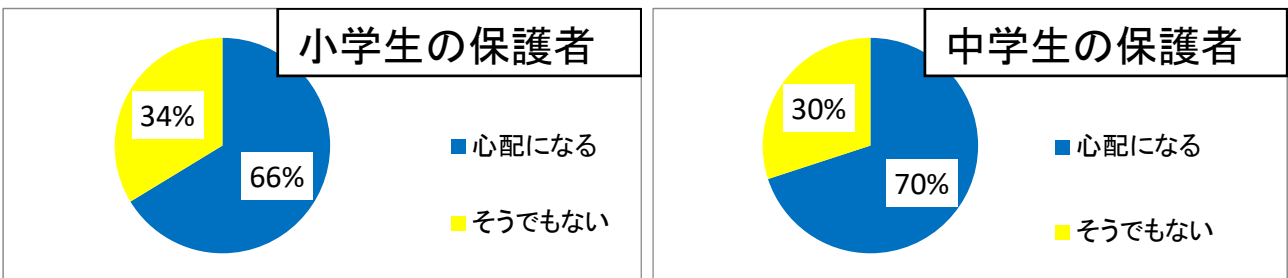
全国統計では、小学生の約37%、中学生の78%が自分専用の携帯電話を持っており、佐久市の児童生徒は、所持率が低い。しかし、携帯電話を持っていない中で、タブレットやゲーム機等への依存率が高くなる傾向があり、安全で適切な使用をするための啓発活動がさらに必要であると考えられる。

### ③ お子様が日常的に使えるゲーム機やタブレット等がありますか？

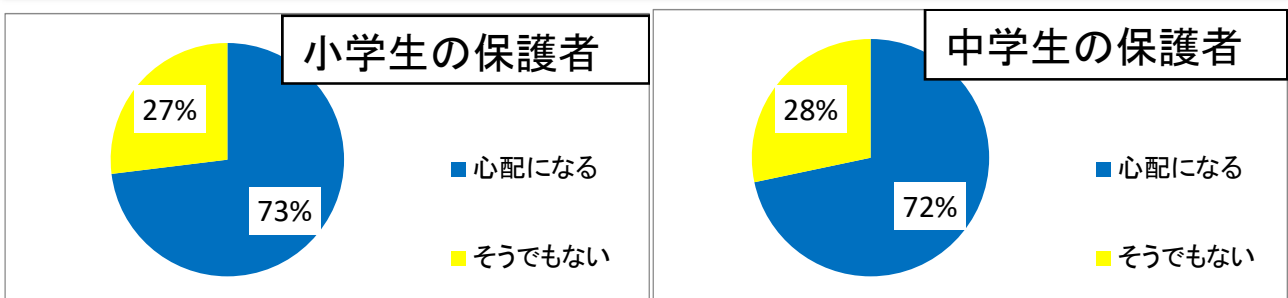


問①の結果からもわかるように、携帯電話の所持率は比較的低いので、機能的にはほぼ同等のタブレットや、インターネット接続が可能なゲーム機を購入するケースが多いことがわかる。インターネット接続できると、ユーチューブなどで動画を見ることもできる。また、対戦型のゲームでは、インターネット接続して、見知らぬ人と対戦したり、チームを作って遊んだり、更にその中で、チャットをするなど、知らない人との出逢いの機会もたくさんある。パソコンからインターネット接続をすることには慎重な家庭も、ゲーム機等からのアクセスの問題点について十分に理解できていない状況もあり、この点を特に重要視して啓発を進める必要があると思われる。

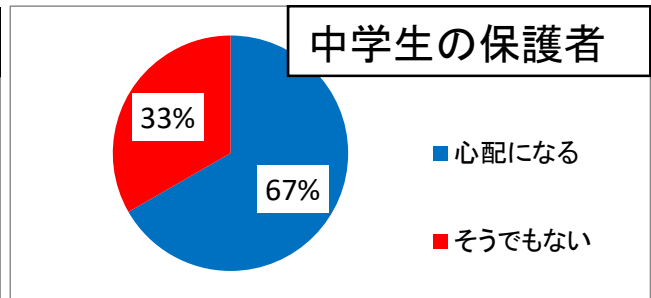
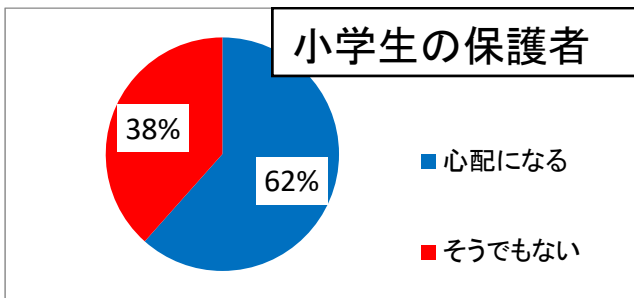
### ④ お子様が携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。 (a) お子様の生活リズムへの影響について



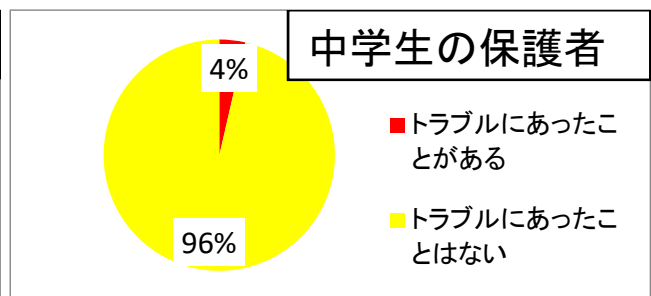
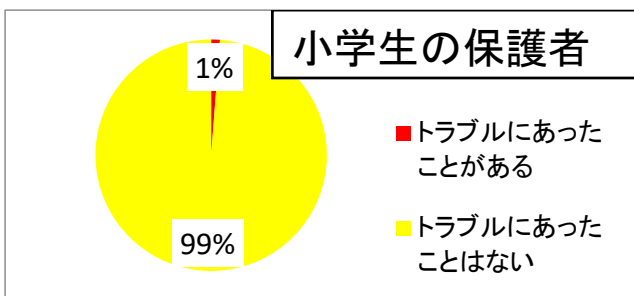
### ④ お子様が携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。 (b) お子様の心や体への影響について



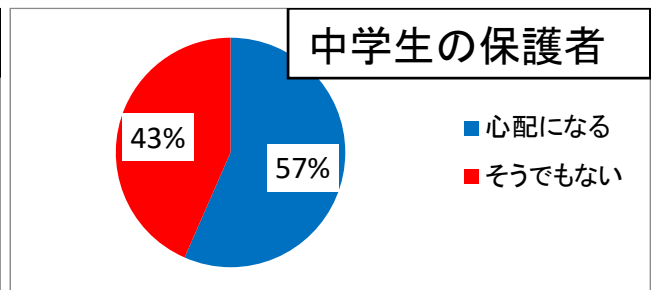
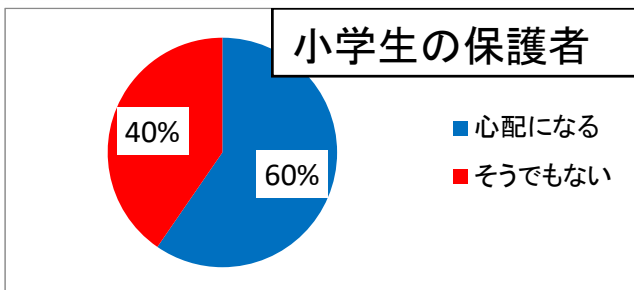
④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。  
 (c) お子様の友達や他人とのネット上でのトラブルについて



④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。  
 (d) お子様のネット上でのトラブルについて

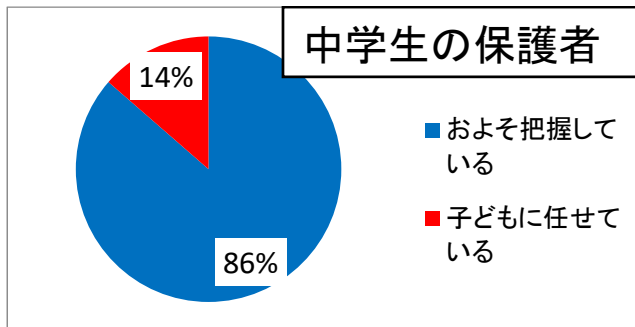
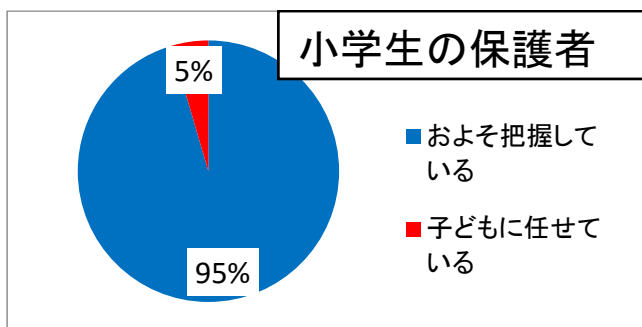


④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。  
 (e) 会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについて

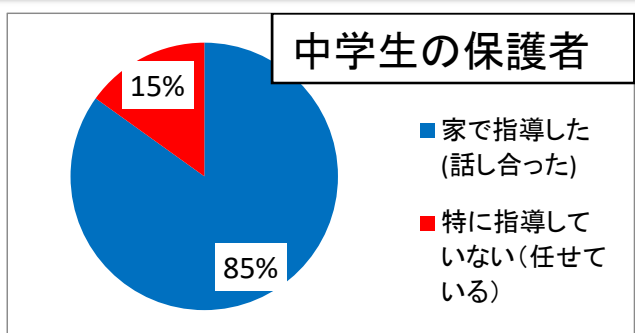
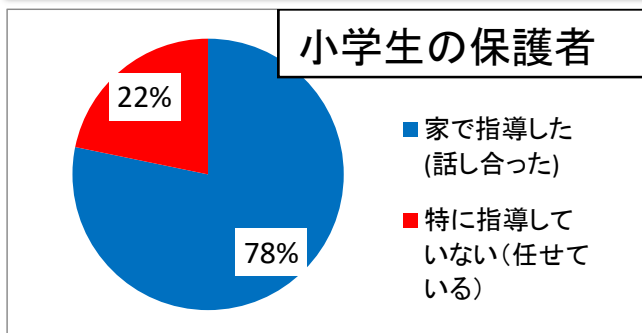


(a) お子様の生活リズムへの影響について、(b) お子様の心や体への影響について、(c) お子様の友達や他人とのネット上でのトラブルについては、約3分の2の保護者が「心配になる」と答えている。反対に、約3分の1の保護者は「そうでもない」と回答しており、子どもたちのアンケートの問⑥「スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって困った(心配な)ことはありましたか?」の問いに、多くの子どもたちが、お金のことや勉強中のLINE、アダルトのことに関わる心配をしていることを保護者が知らないでいる現状がうかがえる。(d) お子様のネット上でのトラブルについては、それを裏付けるように、子どもがトラブルに遭ったことがあると承知している保護者は、1割にも満たない。(e) 会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについても、保護者は心配をしているが、どこか子ども任せになっており、子どもたちのアンケート結果のような実数と一致していない現状が見られる。保護者が思っている使い方と、実際の子どもたちの使い方、大きな認識のずれがあることが心配である。

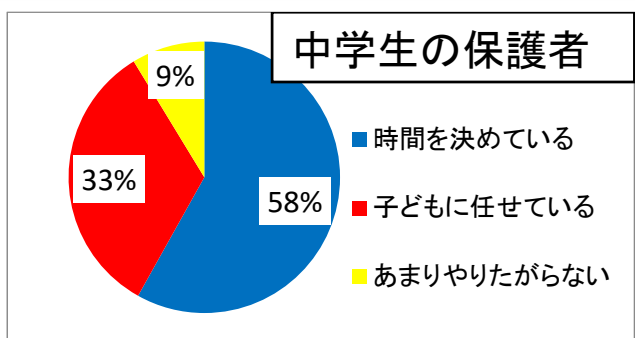
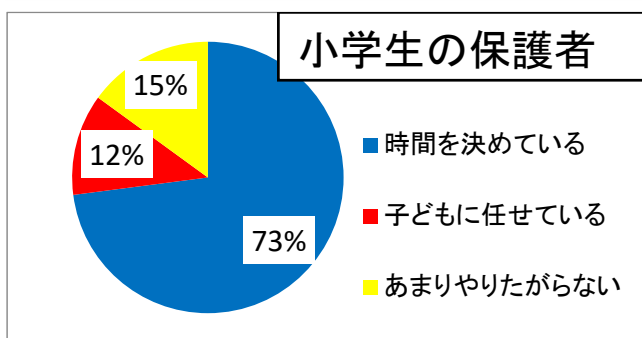
⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。  
 (a) 接続先や、使用状況について



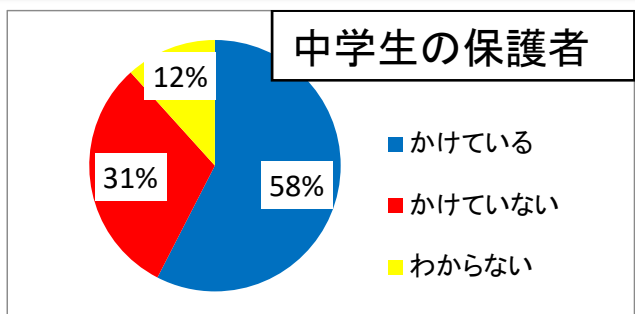
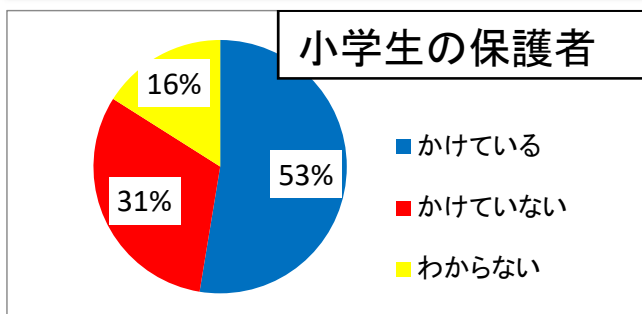
⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。  
 (b) インターネットの危険等について



⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。  
 (c) 使用時間について



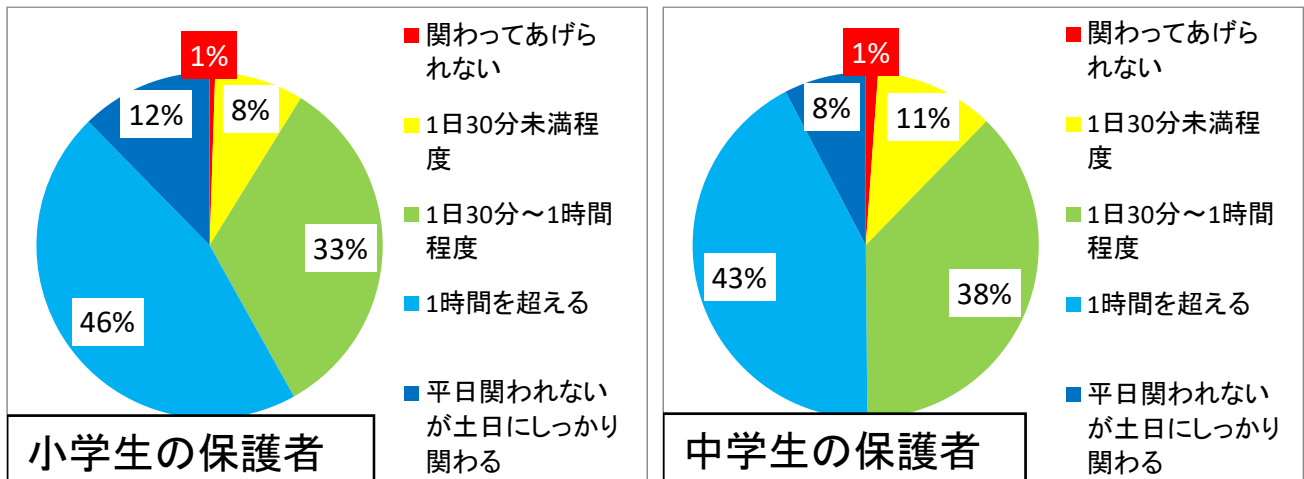
⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。  
 (d) フィルタリングをかけている



接続先や使用状況、危険等の指導、使用時間については、多くの家庭で対応している現状が見えるが、「子どもにまかせている」「特に指導していない」といった家庭については、児童生徒が自覚を持って節度ある行動を取っているために必要がないのか、あるいは本当に子どもまかせなのかについて見極めていく必要がある。

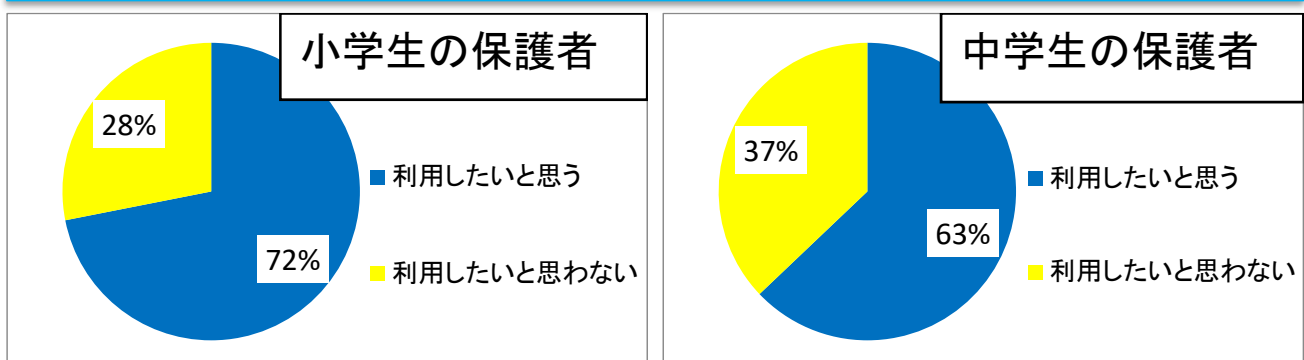
児童生徒の使用についてフィルタリングをかけることが望ましいが、かけているのかかけていないのかについて把握していない家庭が1割以上あることに課題がある。

### ⑥ お子様とのふれあう時間についてお答えください。



小学生、中学生ともに多くの家庭で30分を超える時間で子どもと関わりができていくことがわかる。一方でかかわってあげられない家庭もあり、子どもの心の安定という観点からも、土日や保護者の休みの日にしっかり関われる家庭の様子を参考にするなど、どうやって子どもとふれあう時間を作っていくか、保護者どうしが様々な場で共有していく必要がある。

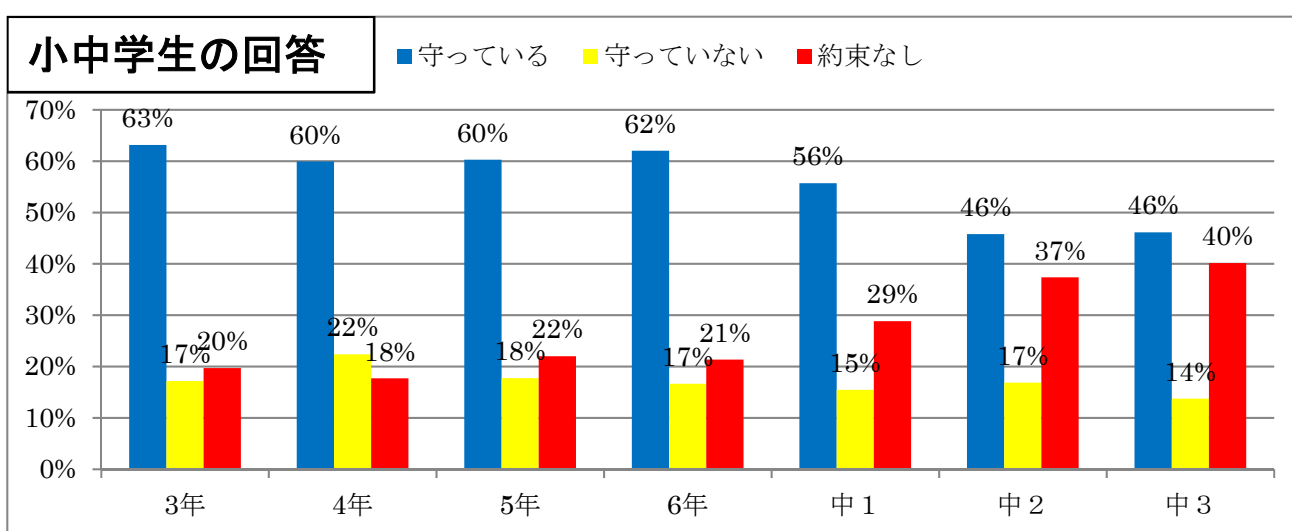
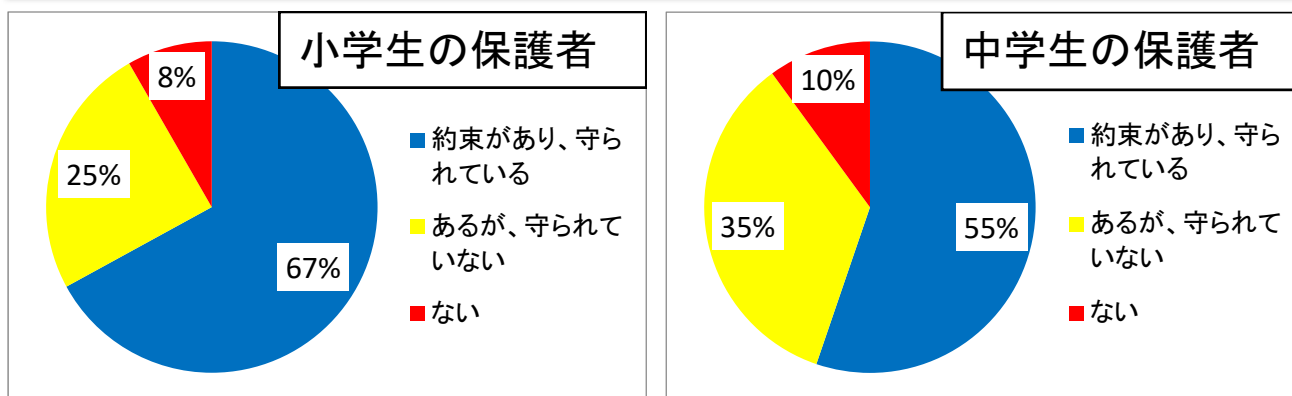
### ⑦ お子様とのふれあう機会（親子ふれあいデーなど）があれば利用したいと思いますか？



6割以上の保護者が「利用したいと思って」おり、Saku kids メディア Safuetyで行っている親子ふれあいデーや、啓発の資料などは引き続き有効利用してもらえらると思える。「利用したいと思わない」保護者が3割ほどいるが、家庭でふれあう機会が持っているために、特に必要ないという家庭が多いのだとすれば、大変よい傾向である。



⑧ お子様の携帯電話やゲーム機等の使用について、家庭での約束はありますか？  
 (※使用している家庭のみお答えください)



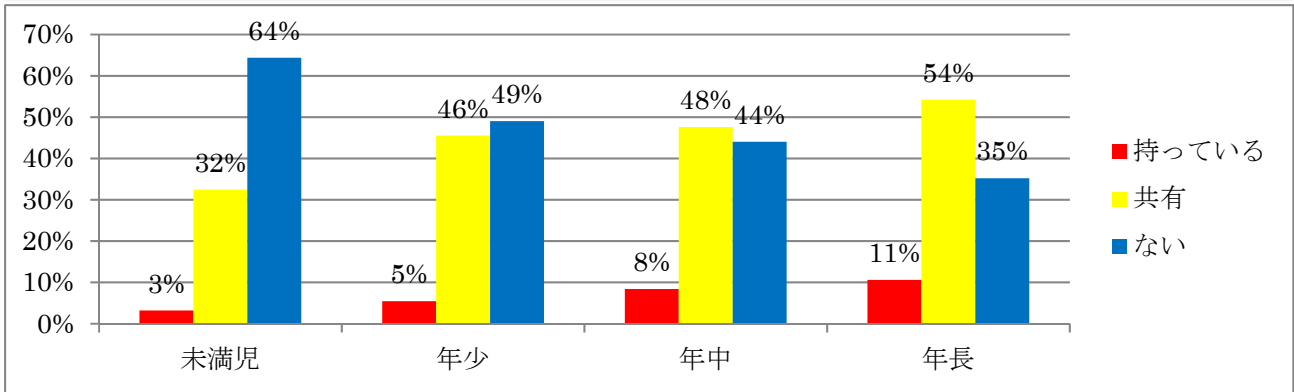
保護者の約1割が「約束がない」と回答しているが、小学生の約2割、中学生の3～4割が「約束はない」と思っている。保護者は、約束のもとに携帯電話やゲーム機等を使用させていると思っているが、子どもたちは「約束がない」ものとしてとらえている。保護者の約3割が、「約束はあるが守られていない」と思っているが、子どもは「約束を守っていない」が2割弱であり、その差が「約束がない」にカウントされていると考えられる。買ってもらうときは約束があったのだが、使っているうちに「約束がないがごとき使い方」が日常の使用の仕方になっている可能性がある。

この意識のずれが、保護者④(d) お子様のネット上でのトラブルについての回答の、トラブル認知の少なさや、(e) 会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについての回答の、あまり心配をしていないが4割ほどになることにつながると考えられる。子どもの使用実態を保護者がしっかりと把握した上で、使用する目的や時間をコントロールしていかないと、保護者の知らないところで、多額の課金をして後日請求が来たり、見知らぬ人と会っていたり、SNSやLINEなどでとりかえしのつかない書き込みや動画の添付をしたりすることが起こりかねない。

子どもを信じて携帯電話やゲームの使い方を任せるのであれば、信じて任せることができるだけの力(心のコントロールの仕方や相手を考えた言葉の使い方など)をしっかりと教え、身に付けさせることが重要であろう。そして、それ以前に、保護者(大人)自身が、子どもに見せている後ろ姿を見返すことが必要なかもしれない。

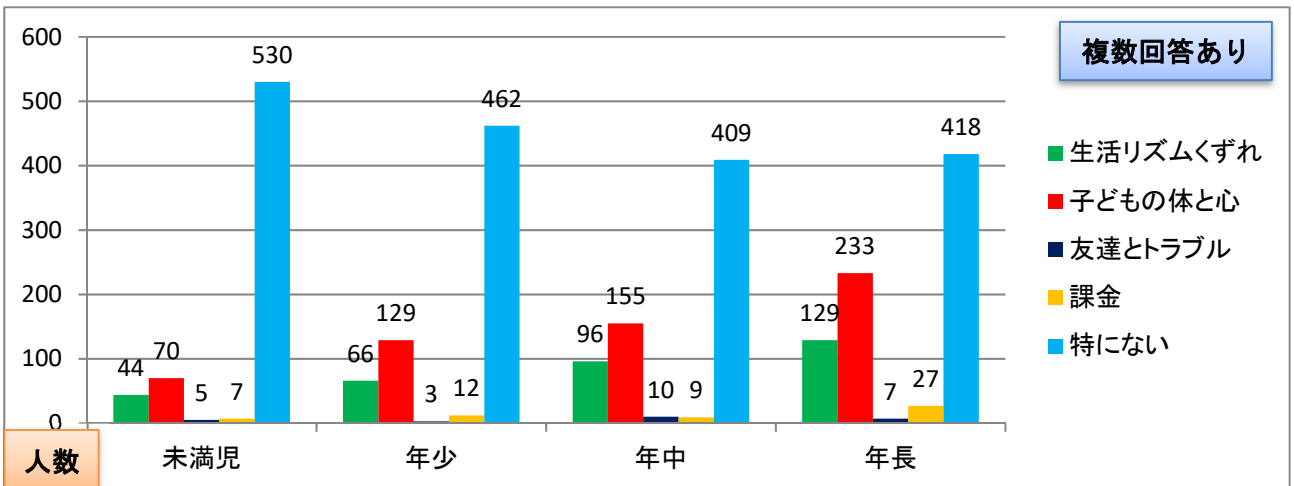
### (3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

#### 問① 子どもが使えるゲーム機や、ゲームができるタブレット等がありますか？



問①では、共有で使える子どもが多く、未満児で35%、年少～年長では6割ほどの子どもが何らかの形でゲーム機等に触れている状況がわかる。年長では、1割強が自分で使えるゲーム機等を持っており、使用時間のコントロールをすることや、どんなことに使っているかを把握することなどを、保護者が確実にやっているか心配されるところである。

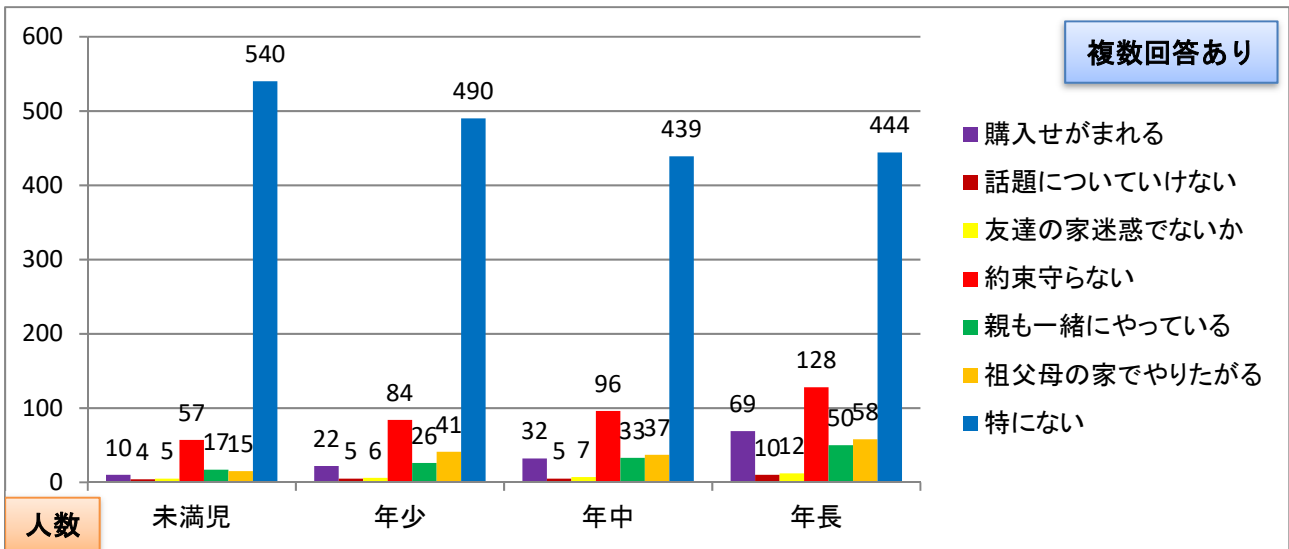
#### 問② 子どもがタブレット、ゲーム機等を使うようになって不安なことはありましたか？



子どもがタブレット、ゲーム機等を使うことに関しては、不安なことは特にないという回答が多く、およそ保護者がコントロールできている状況がうかがえる。小中学生の保護者アンケートでは「生活リズムのくずれ」を心配する保護者が多い。

「子どもの心と体への影響」を心配する保護者の割合が多く、幼少である子どもへの影響を心配している状況がうかがえる。実際に脳や目等への影響、また心への影響が大きいと考えられるのが幼少期であることから、このような不安を取り除くため、また、関心が薄い中で使用している家庭への啓発という点でも、「電子メディアの過剰接触の影響」について考える機会を大切にしたいところである。

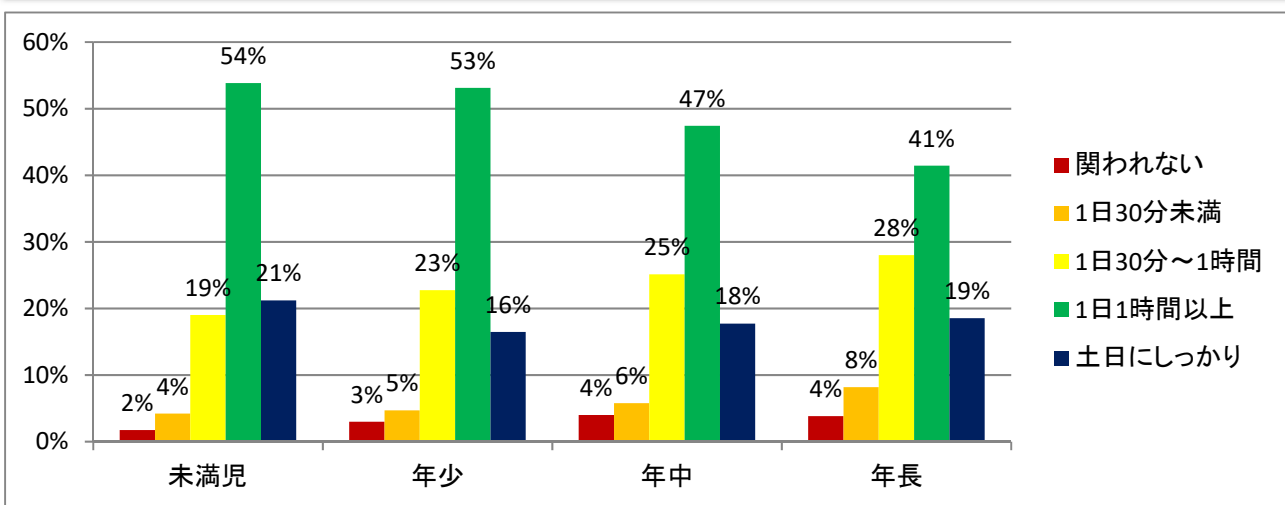
### 問③ その他、対応に困ることなどありますか？



ほとんどの家庭で対応に困ることは「特にない」状況で、こちらも保護者のコントロールができていない状況であると考えられる。

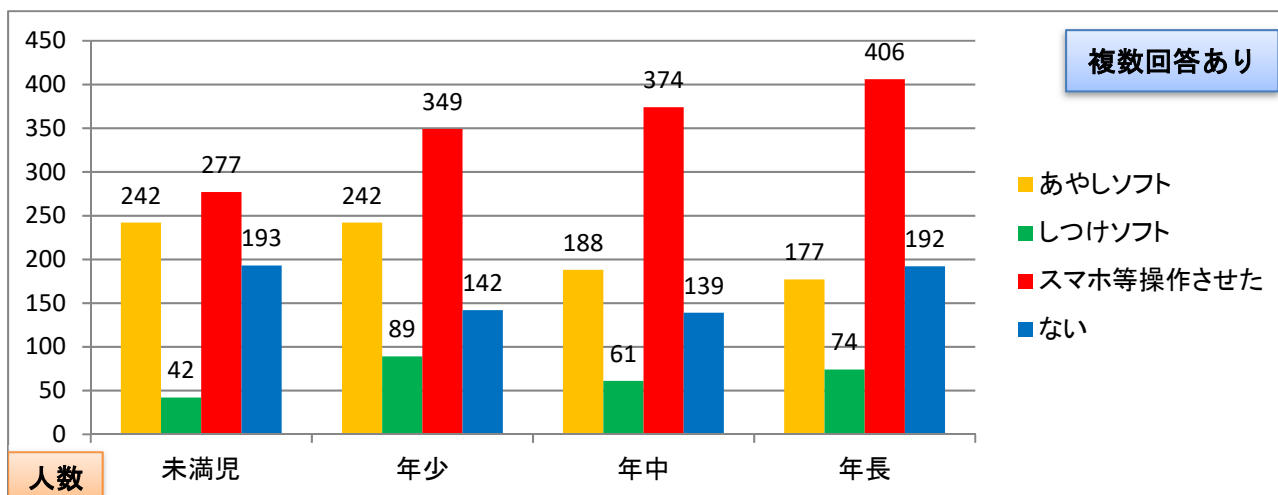
しかし、わずかずつではあるが対応に困ることが、年齢が上がるごとに増えてきている。「約束を守らない」が一番多く、次いで「購入をせがまれる」「祖父母の家でやりたがる」が続く。兄弟姉妹の影響なども考えられるが、子どもたちがメディアに触れると、使用したい気持ちが強くなり、使用時間を長くするための要求が強くなる様子がうかがえる。また、対応に困る項目の「親も一緒にやっている」が増加傾向にあり、保護者世代が、スマホを高校生頃から日常的に使用してきた世代となってきたことが関係しているように思われる。

### 問④ 子どもとのふれあいについてお答えください？



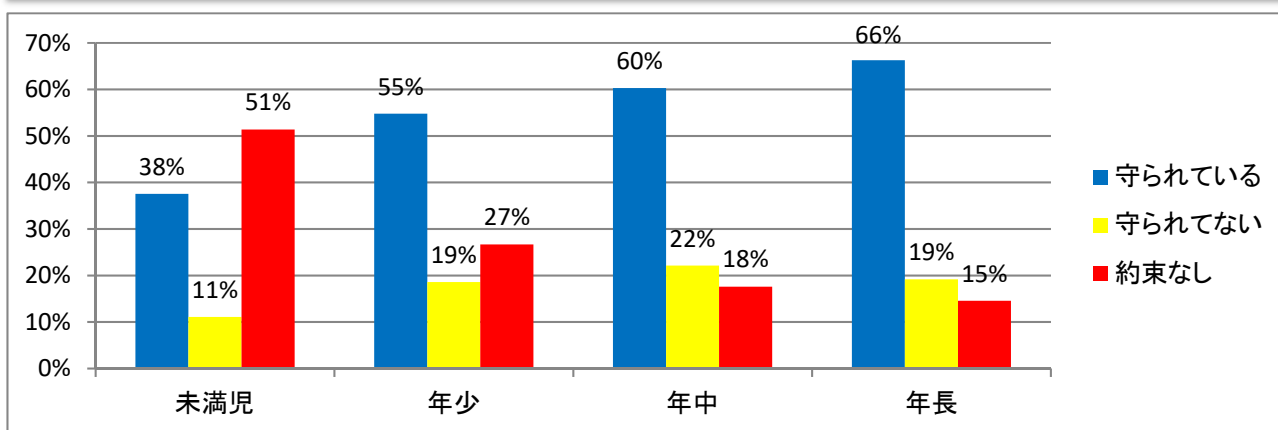
1日1時間以上子どもとのふれあいをしている家庭が最も多く、30分未満であっても子どもとのふれあいの時間を持とうとしている状況が見られる。平日に時間がとりづらい家庭は、土日などの休日にしっかりと子どもとふれあう時間を作っている。保護者が子どもとふれあうことが、結果的にメディアから離れることにつながる。

問⑤ 最近の1年以内で、子どもを落ち着かせたいときや言うことをきかせたいときに、スマホ・タブレットやゲーム機等に、たよったことはありますか？  
(少しでも当てはまるものがあつたら○をしてください。)



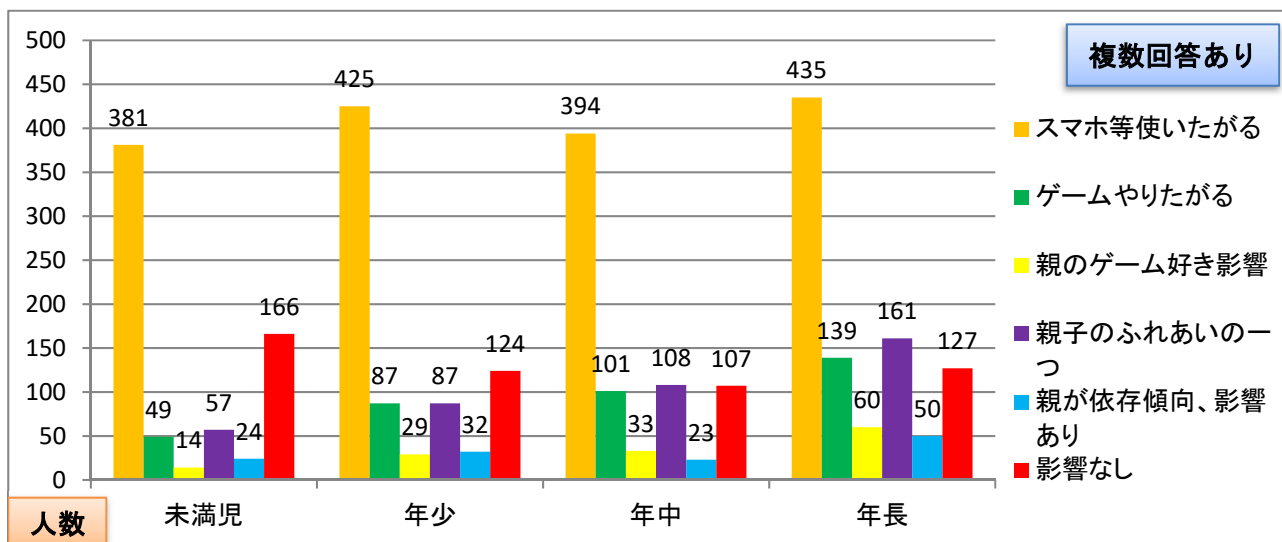
多くの保護者がスマホ・タブレット・ゲーム機等にたよった経験があると回答している。「スマホ等を操作させた」が多く、「あやしソフト」が2番目に続く。たよったことはないと回答した保護者は、全体の約2～3割である。子どもは、動くものや音の出るものに反応する傾向が強く、動画や音楽を見せたり聞かせたりすることが多いようである。どうしても保護者の手が離せない時などに短時間メディアを利用したくなると思われるが、それに慣れて、長時間の利用をすることや頻繁に利用することがないようにしないと、子どもたちの心や体への影響が心配される状況となる。

問⑥ タブレット、ゲーム機を使うときの子どもとの約束はありますか？  
※使用しているお家だけ教えてください。



タブレットやゲーム機を子どもが使うときに、約束をしてから使わせている家庭は、年齢が上がるごとに増えている。これは、約束の意味がわかり、子どもなりの心のコントロールができるようになっていくことを意味していると考えられる。未満児では、約束自体が難しい子どもが多いのではないかと思われる。低年齢での使用はなるべく避けたいが、使用する場合には、年齢に応じた使用の仕方を工夫することが大切になる。

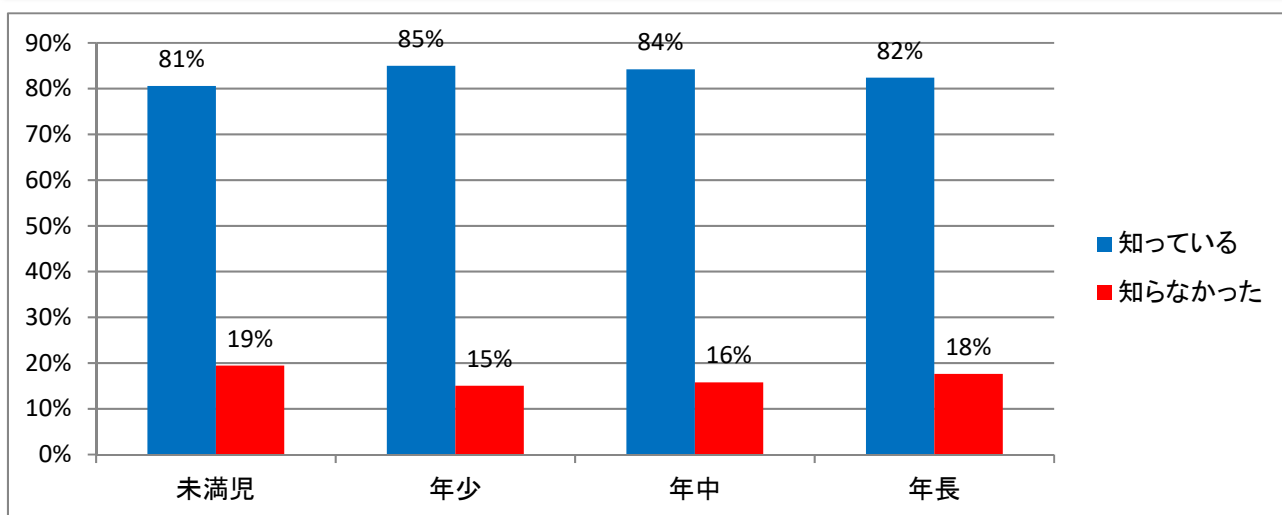
問⑦ タブレットやゲーム機等使用について、親から子どもへの影響が出ていると思いますか？



スマホを使いたがる子どもは、未満児から多く見られることから、幼少期の子どもへの影響は、保護者の姿勢にかかっているとみえる。保護者の多くが、「ゲーム世代」「スマホ世代」で育ってきたと言われる現在において、子育てのあり方を共に考えていく非常に重要な局面を迎えていると考えたい。

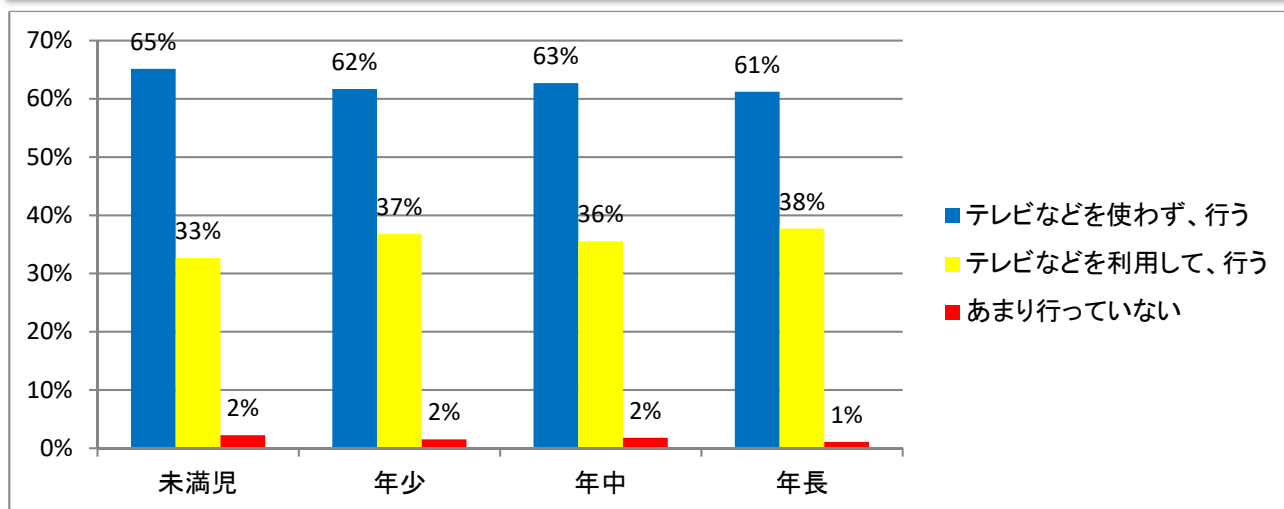
また、「影響がない」と回答している保護者が全体の2割ほどいる。次の問⑧の数字とも一致するデータとなっている。

問⑧ 電子メディアの使用が0～2歳の子どもの心や体に、大きな影響があることをご存じですか？



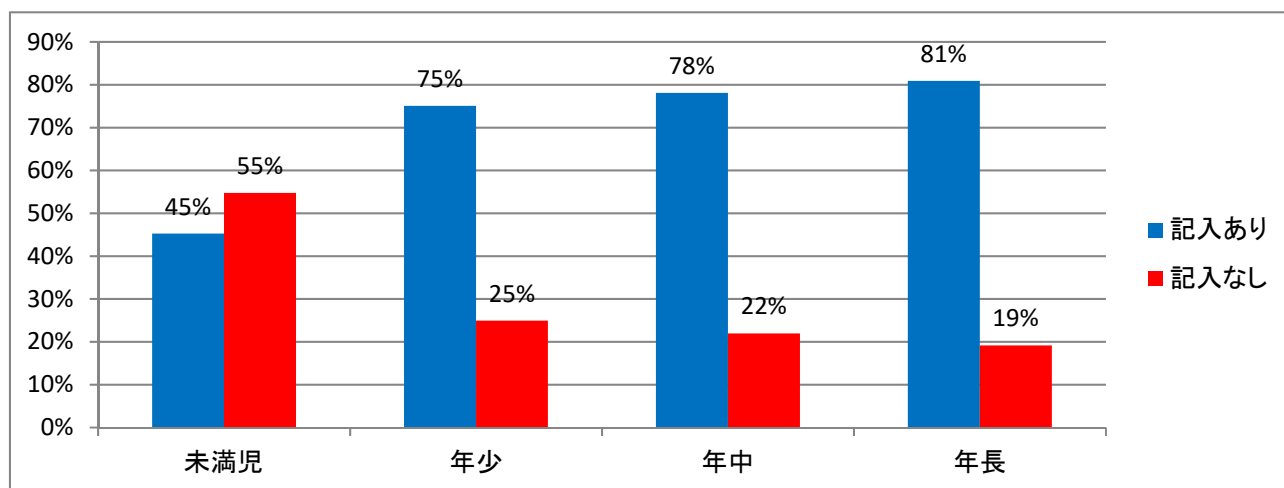
全体の約2割が「知らなかった」と答えている。メディアの長時間利用による幼児期の子どもへの心や体への悪影響について、小児科医会などから発信されている内容を、もっと保護者が関心を持ってとらえるような対策が必要である。大人が利用することによる心や体への影響と子どもへの影響とは、大きく違いがあることを認識し、特に乳幼児期にメディアに接触することの問題の大きさを、大人が理解する必要がある。

問⑨ 食事の時などに、テレビや電子機器の利用などに限らず、親子の対話やふれあいを行っていますか？



親子のふれあいについて、ほとんどの家庭が、食事の時などに意識を持っており、親子のふれあいを大切に考えている状況がみられる。テレビなどを使わずにふれあいを行っている家庭が全体の6割以上を占め、子どもとの会話などでふれあいを行っていると考えられる。また、テレビなどを利用してふれあいを行っている家庭は3～4割あり、話題のきっかけとして利用していたり、テレビなどの内容から話をしたりしているようである。

問⑩ お子さんの将来のゆめは何ですか？親子で話し合ってみてください。



未満児は、「将来のゆめ」という概念をまだ持てない子が多いのかも知れないが、年少になると、7割以上が「将来のゆめ」について親子で話し合うことができおり、自分のこれからのことについて少しずつ見通しが持てるようになってきていることがわかる。「記入なし」であっても、話し合ったけれどまだ具体的に「ゆめ」を持つところまで行かないというケースも考えられ、このような話題を親子で持つこと自体が大切なふれあいの機会であり、親から子への愛情表現となっていると考える。